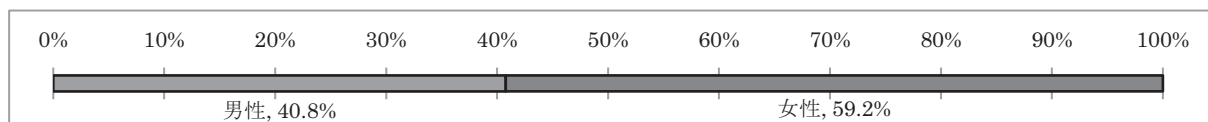


## 第2章 調査の結果

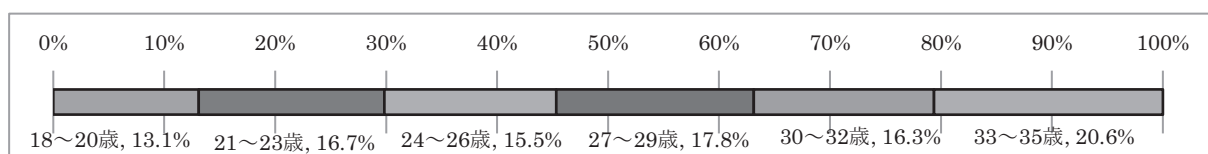
### 1 回答者の属性（性別、年齢、居住市町村）

問1 あなたの性別と年齢及びお住まいの地域を教えてください。（回答数/1,052）

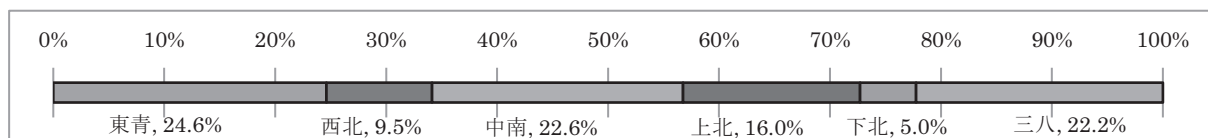
#### (1) 性別



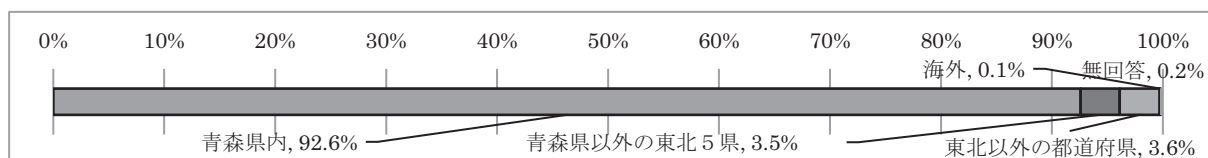
#### (2) 年齢層



#### (3) 居住地域

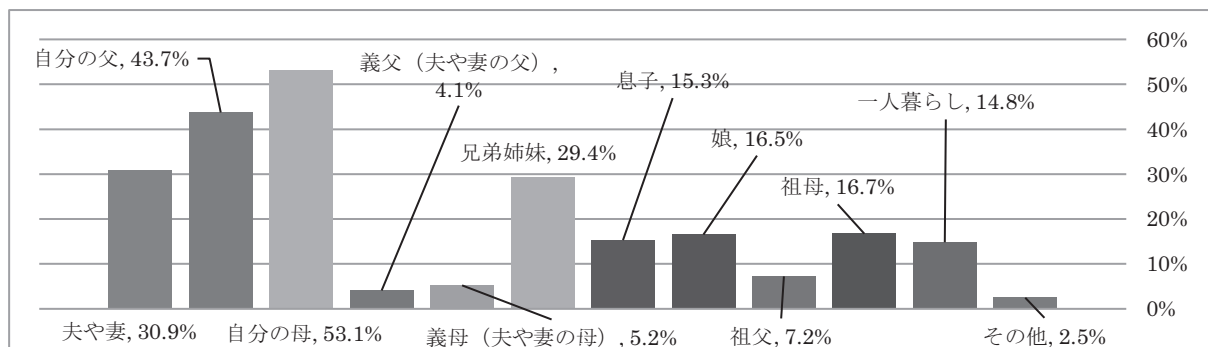


問2 あなたが卒業した中学校は、どこにありましたか。次の4つの中から1つだけ○をつけてください。（回答数/1,052）



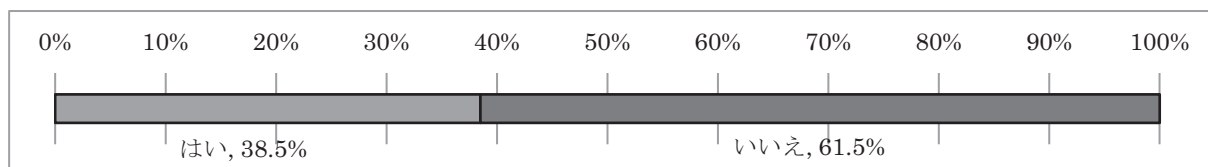
県内の中学校を卒業したのは全体の92.6%であった。青森県以外の中学校を卒業したのは、全体の7.2%であった。回答者は県内に在住しているので、全体の7.2%がIターン者である。（p30を参照）

問3 現在、あなたはどなたと同居していますか。一緒に暮らしている方すべてに○をつけてください。一人暮らしの方は、「11. 一人暮らし」に○をつけてください。（回答数/1,052）



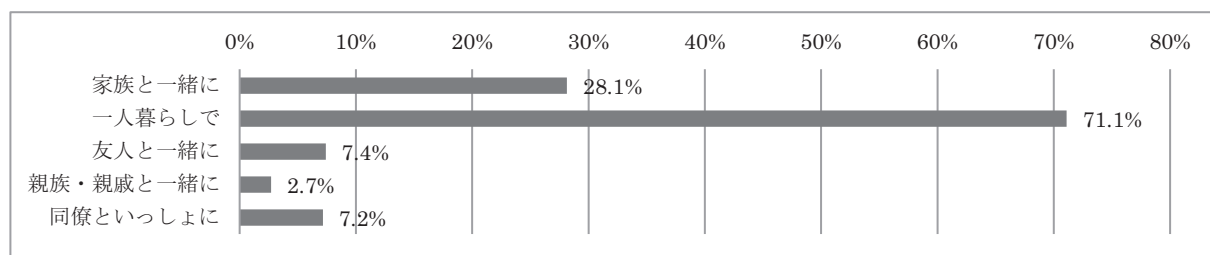
[その他の記述]・叔父(5名) ・叔母(6名) ・叔父、叔母 ・甥(2名) ・姪(5名) ・姪、甥 ・夫の姪 ・義理の妹  
・義理の祖母 ・義理の姉、子 ・いとこ ・同僚 ・婚約者 ・彼氏 ・彼女 ・恋人

問4 あなたは、これまでに青森県以外の都道府県で1年以上生活したことがありますか。いずれかに○をつけてください。（回答数/1,052）



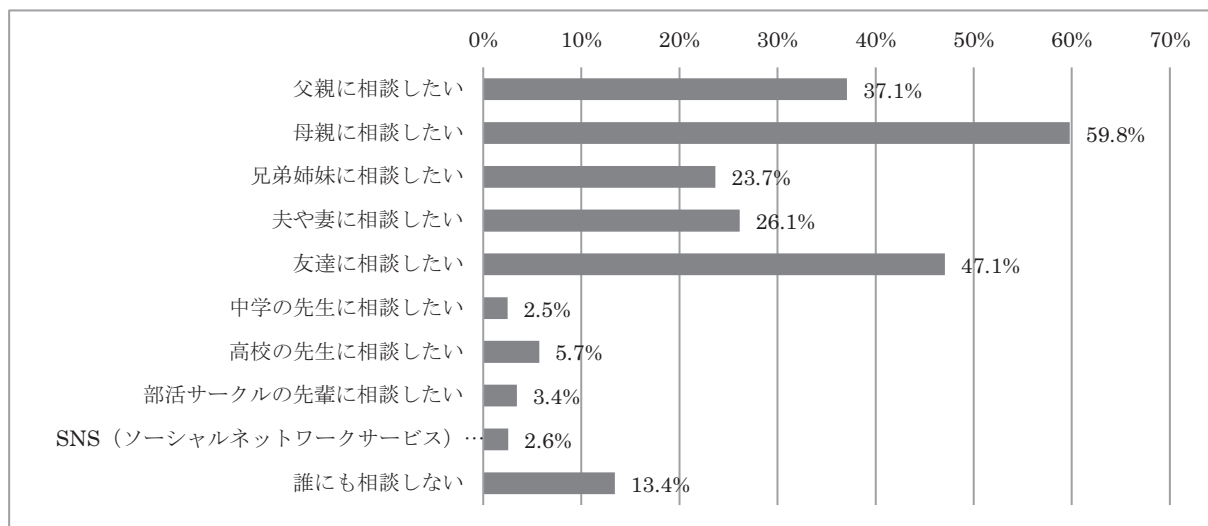
全体の38.5%が、県外で1年以上生活した経験があることがわかった。回答者は県内に在住しているの、全体の38.5%が、U・I・Jターン者である。（※U・Jターン者 31.4%）

問4-① 問4で「はい」と答えた方にお聞きします。青森県以外の都道府県で1年以上生活したときは、どなたと一緒にでしたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。回答数/405



県外で1年以上生活した経験のある若者のうち、最も多いのが「一人暮らし」の71.1%で、次いで「家族と一緒に」の28.1%であった。（※U・Jターン者の一人暮らしは、全体の63.5%）

問5 あなたは、将来の夢や就きたい職業について相談するとしたら、誰に相談したいですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。（回答数/1,052）

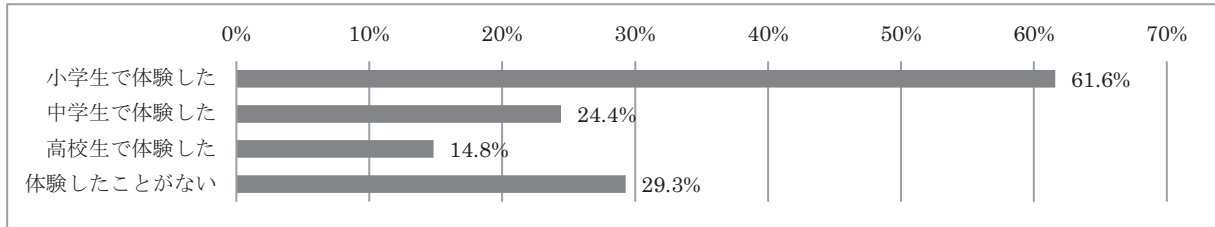


将来の夢や就きたい職業について相談したい相手は、最も多いのが「母親」で59.8%、次いで「友達」が47.1%、「父親」が37.1%である。また、「誰にも相談しない」が13.4%であった。

## 2 若者の学習・生活体験

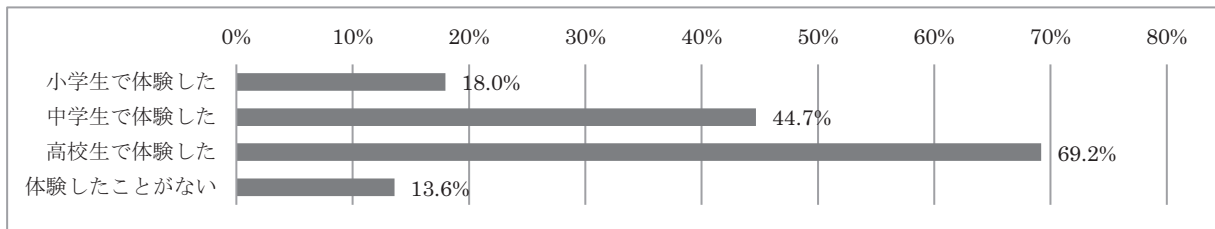
問6 あなたの小学生・中学生・高校生のときのことについてお聞きします。以下のことを体験したことがありますか。それぞれの項目ごとにあてはまるものすべてに○をつけてください。

＜学校行事以外で、野外で炊事したりテントに泊まったりしたことがある＞ (回答数/1,052)



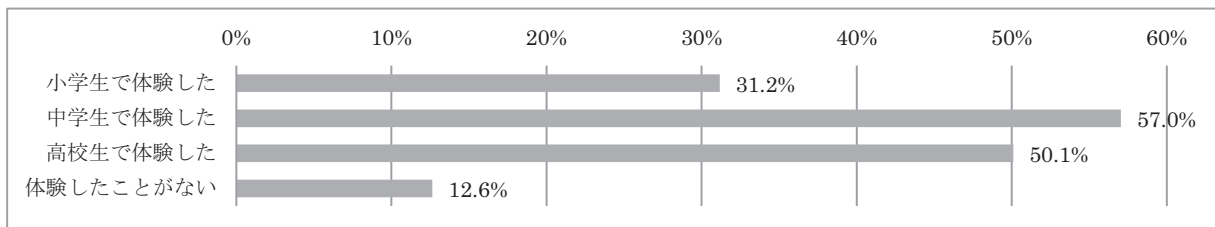
小学生での体験が最も多く 61.6%、「体験したことがない」は全体の 29.3%と 3 割近くの若者は野外で炊事したりテントに泊まったりしたことがない。

＜興味のある仕事について、本やインターネットで調べたことがある＞



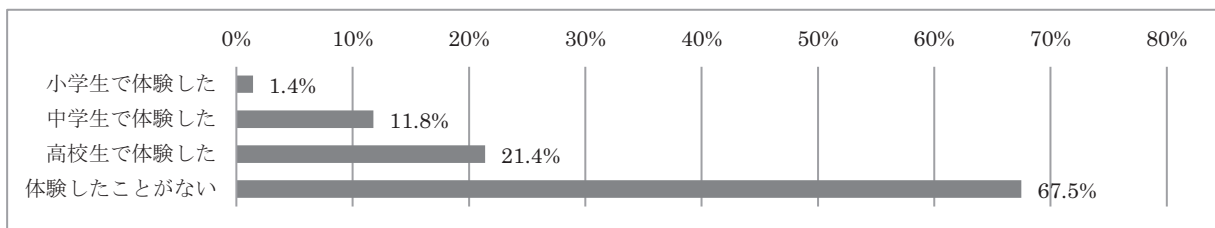
仕事について調べた経験については、「高校生で体験した」が最も多く 69.2%、次いで「中学生で体験した」が 44.7%となっており、年代が上がるにつれて、仕事についての興味関心が高くなっている。

＜職場見学や職場訪問をしたことがある＞



職場見学や職場訪問については、「中学生で体験した」が最も多く 57.0%、次いで「高校生で体験した」が 50.1%となっており、「体験したことがない」12.6%を除くと 9 割近くが体験している。

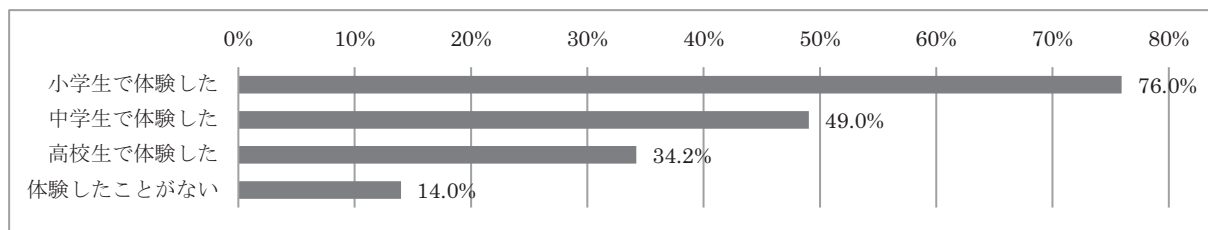
＜4 日以上職場体験やインターンシップを体験したことがある＞



長期の職場体験やインターンシップについては、全体の 67.5%が体験したことがないと回答している。

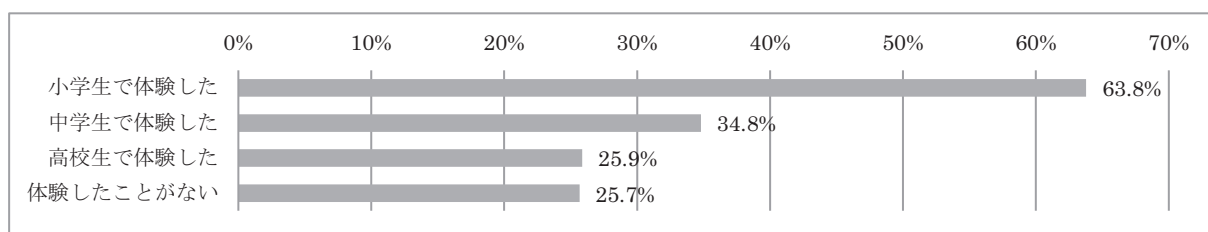
＜地域の祭りに参加したことがある＞

(回答数/1,052)



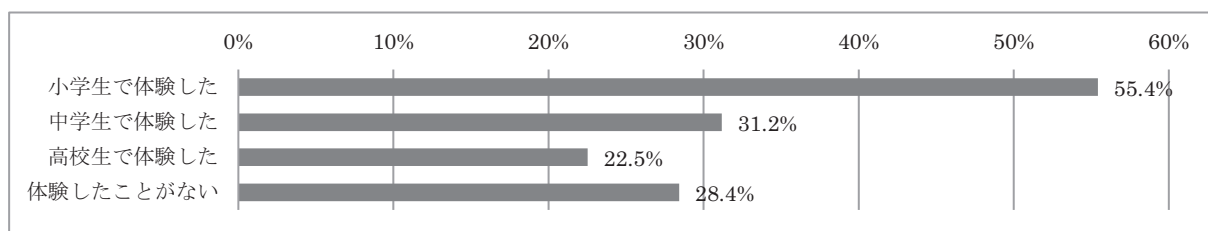
地域の祭りには、全体の76.0%が小学生で体験しているが、年代が上がるにつれて、参加する割合が低くなっていく傾向にある。

＜地域のイベントに参加したことがある＞



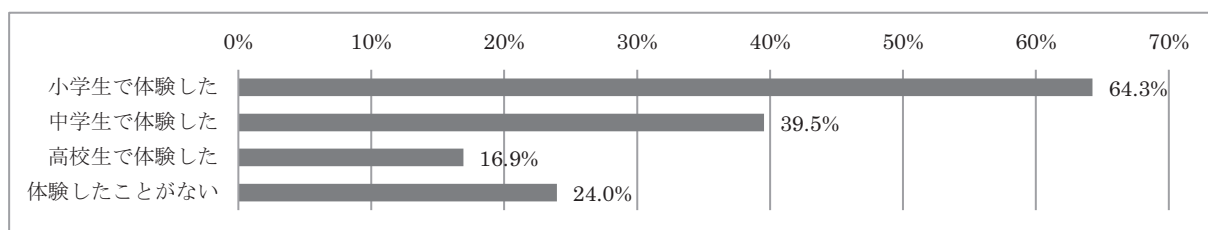
地域のイベントには、地域の祭りと同様に年代が上がるにつれて、参加する割合が低くなっていく傾向にある。「体験したことがない」と回答した若者は、25.7%と4人に1人は参加したことがないと回答している。

＜地域のイベントの手伝いやゴミ拾いなどに参加したことがある＞



地域のイベントの手伝いやゴミ拾いには、地域の祭りやイベントと同様に年代が上がるにつれて、参加する割合が低くなっていく傾向にある。小学生で体験したのは55.4%と地域の祭りと比較して20ポイント程度低くなっている。また、「体験したことがない」と回答した若者は、28.4%と地域のイベントと同様に4人に1人は参加したことがないと回答している。

＜有料の学習塾やピアノ教室などの習い事に通ったことがある＞

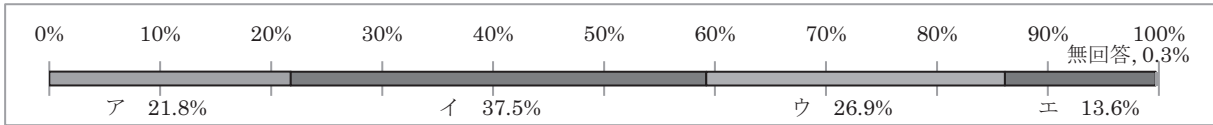


地域の祭りやイベントと同様に、有料の学習塾や習い事に通ったことがある若者は、年代が上がるにつれて、通う割合が低くなっていく傾向にある。また、「体験したことがない」若者は全体の24.0%であった。

### 3 若者の自己肯定感と自己有用感

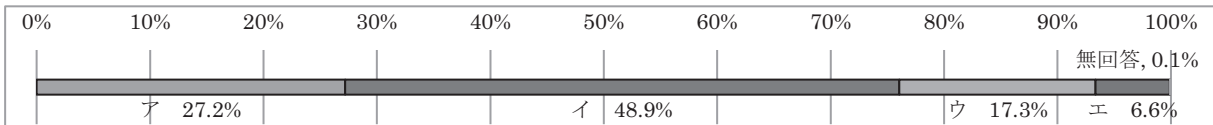
問7 あなた自身のことについてお聞きします。あなたは、以下のそれぞれについて誇りを持っていますか。あてはまるものをそれぞれ1つ選んで○をつけてください。 (回答数/1,052)

<明るさ>

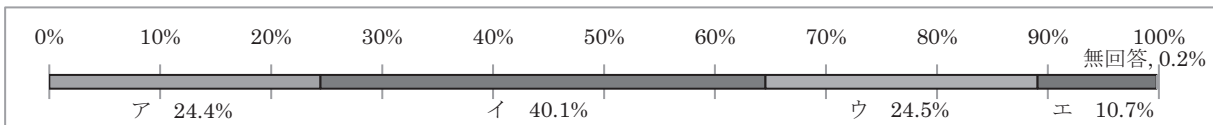


ア:誇りを持っている イ:どちらかといえば、誇りを持っている ウ:どちらかといえば、誇りを持っていない エ:誇りを持っていない

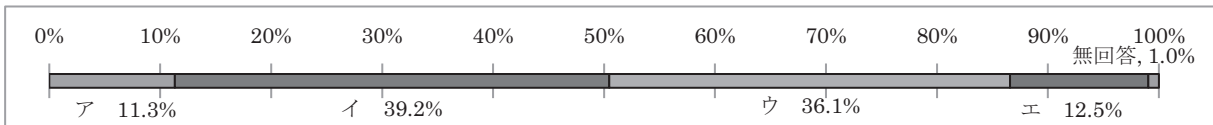
<やさしさ>



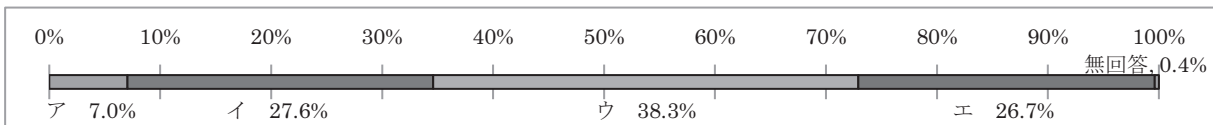
<忍耐力、努力家>



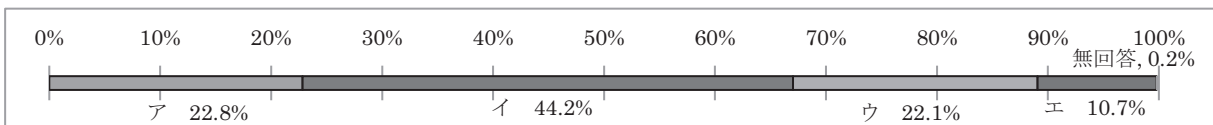
<慎み深い>



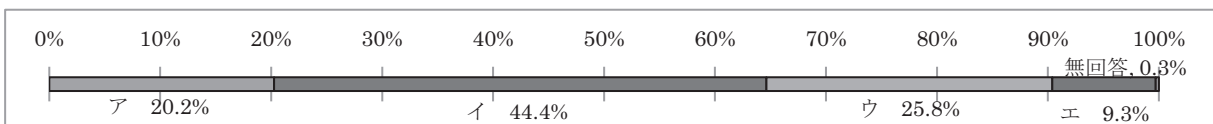
<賢さ、頭の良さ>



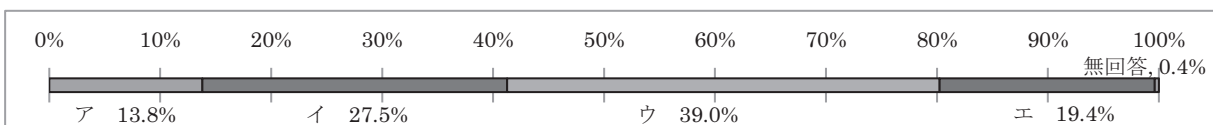
<まじめ>



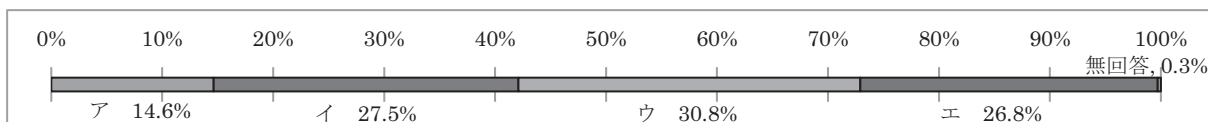
<正義感>



<決断力、意志力>

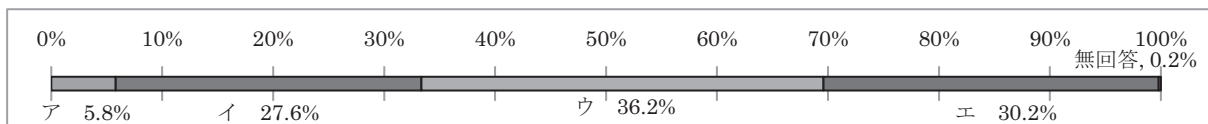


<体力、運動能力>



ア:誇りを持っている イ:どちらかといえば、誇りを持っている ウ:どちらかといえば、誇りを持っていない エ:誇りを持っていない

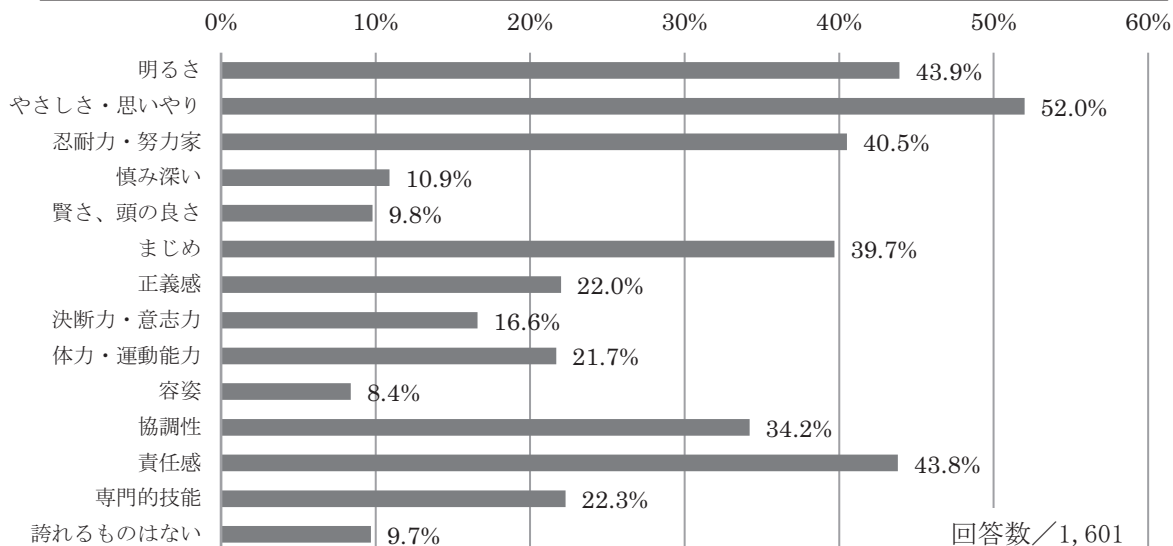
<容姿>



自分自身に誇りを持っているかについて、「誇りを持っている」と「どちらかといえば、誇りを持っている」を合わせると、「やさしさ」については4人に3人の若者が誇りを持っている。「まじめ」と「正義感」については、3人に2人の若者が誇りを持っている。「明るさ」と「忍耐力、努力家」については、6割程度の若者が誇りを持っている。「慎み深い」については、2人に1人の若者が誇りを持っている。「賢さ、頭の良さ」と「容姿」については、3人に1人の若者が誇りを持っている。

平成19年度「若年層の生活体験に関する調査研究報告書」のデータと比較すると、回答方法（複数回答）の違いがあるものの、「やさしさ」や「明るさ」、「まじめ」に誇りをもっている若者が、約10年前と比較しても多いことがわかる。また、「賢さ、頭の良さ」と「容姿」についても、同様に誇りを持っていない若者が多いことがわかる。

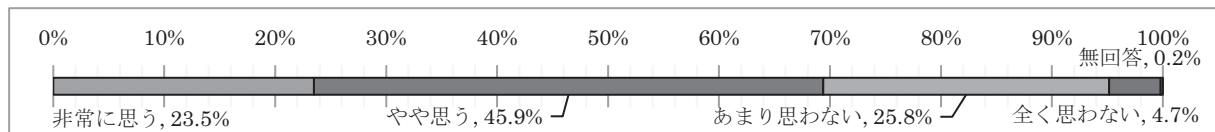
Q 現在、あなたは自分自身について誇れるものを持っていますか。この中からあてはまるものをいくつでも選んでください。（複数回答）



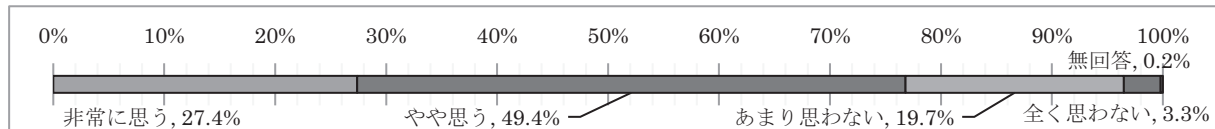
※参考：平成19年度「若年層の生活体験に関する調査研究報告書」より

問8 あなた自身と家族との関わりについてお聞きします。以下のことを、どの程度考えますか。それぞれの項目についてお答えください。(回答数/1,052)

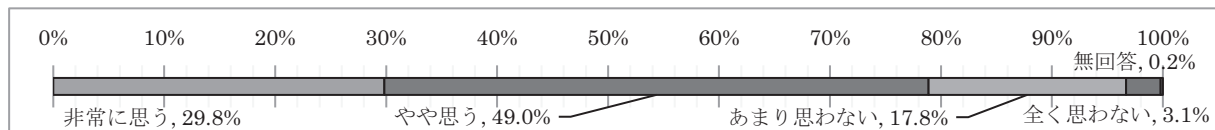
<自分は、家族の役に立っている>



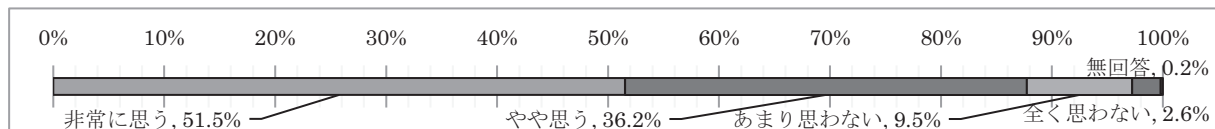
<自分は、家族から信頼されている>



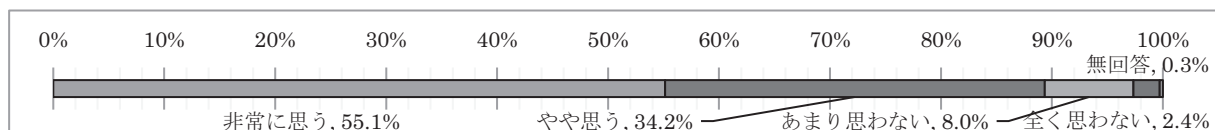
<自分は、家族から頼りにされている>



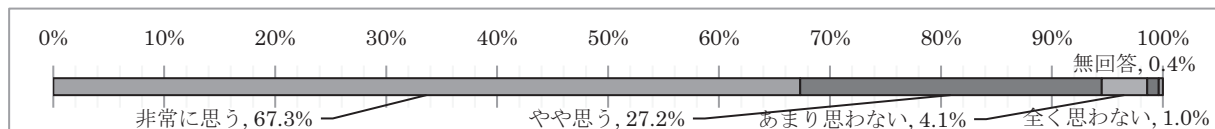
<自分は、家族と一緒にいると安心できる>



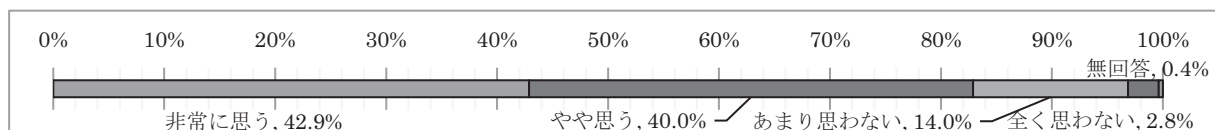
<自分は、家族を信頼している>



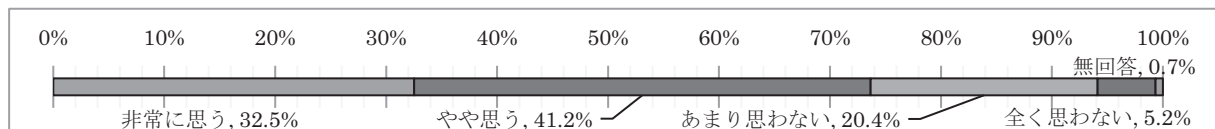
<自分は、家族に支えられている>



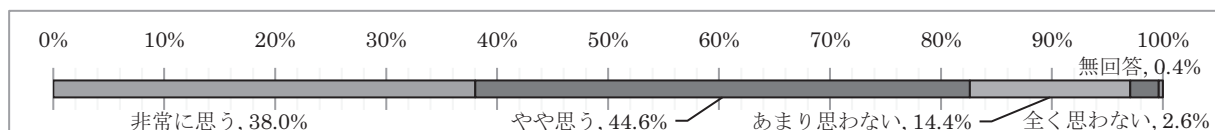
<自分は、家族から「ありがとう」と言われることがある>



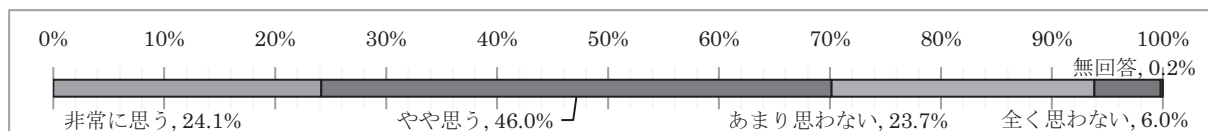
<自分は、家族からほめられることがある>



<自分は、家族の手伝いをすることがある>



＜自分は、家族が納得するような意見を言うことがある＞

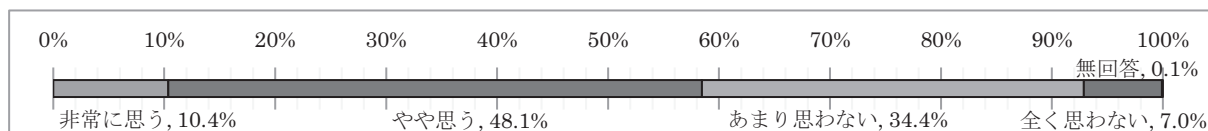


自分自身と家族との関わりについては、「非常に思う」と「やや思う」を合わせると、9割以上の若者が「家族に支えられている」と回答している。「家族と一緒にいると安心できる」と「家族を信頼している」については、8割以上の若者が思うと回答している。「家族から信頼されている」、「家族から頼りにされている」、「家族からほめられることがある」、「家族が納得するような意見を言うことがある」については、7割以上の若者が思うと回答している。「家族の役に立っている」については、6割以上の若者が思うと回答している。

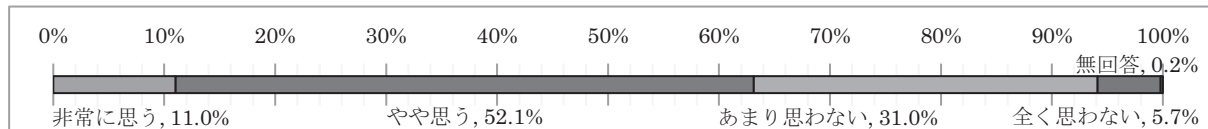
ただし、「非常に思う」のみの回答率を見ると、「家族の役に立っている」、「家族から信頼されている」、「家族から頼りにされている」、「家族が納得いくような意見を言うことがある」については、「家族に支えられている」が5割以上の回答率に対して、3割以下となっている。

問9 あなた自身と学校、職場、地域など、周囲の人との関わりについてお聞きします。以下のことを、どの程度考えますか。それぞれの項目についてお答えください。（回答数/1,052）

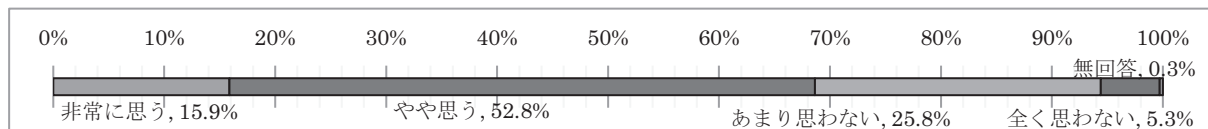
＜自分は、周囲の人の役に立っている＞



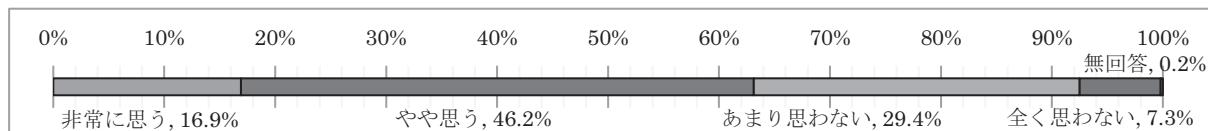
＜自分は、周囲の人から信頼されている＞



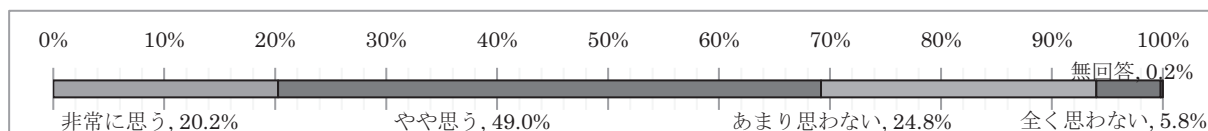
＜自分は、周囲の人から頼りにされることがある＞



＜自分は、周囲の人と一緒にいると安心できる＞



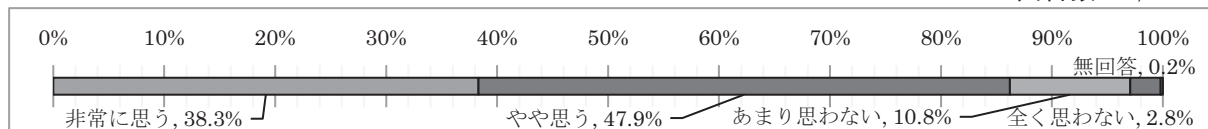
＜自分は、周囲の人を信頼している＞



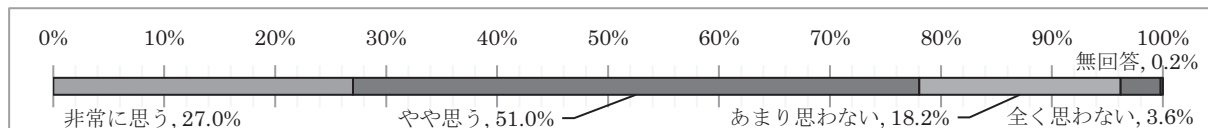


<自分は、周囲の人に支えられている>

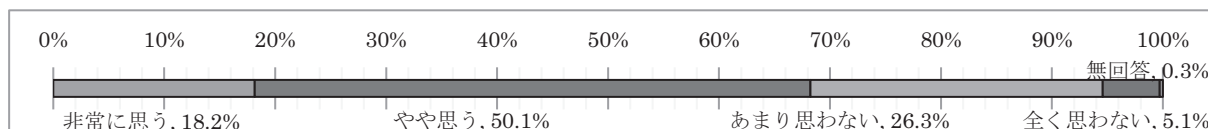
回答数/1,052



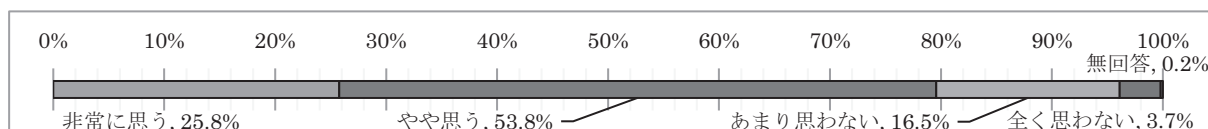
<自分は、周囲の人から「ありがとう」と言われることがある>



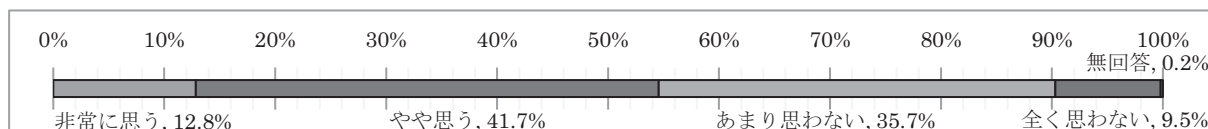
<自分は、周囲の人からほめられることがある>



<自分は、周囲の人の手伝いすることがある>



<自分は、周囲の人の手伝いすることがある>

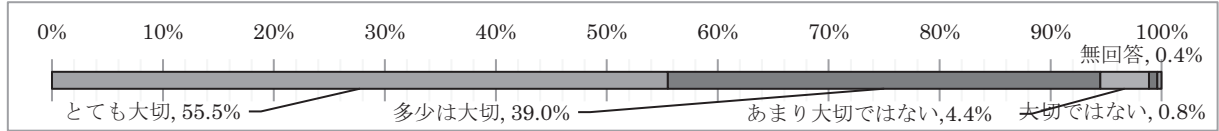


自分自身と周囲との関わりについては、「非常に思う」と「やや思う」を合わせると、8割以上の若者が「周囲の人に支えられている」と回答している。「周囲の人からありがとうと言われることがある」と「周囲の人の手伝いをするがある」については、7割以上の若者が思うと回答している。「周囲の人から信頼されている」、「周囲の人から頼りにされることがある」、「周囲の人と一緒にいると安心できる」、「周囲の人を信頼している」、「周囲の人からほめられることがある」については、6割以上の若者が思うと回答している。「周囲の人の役に立っている」と「周囲の人の手伝いするがある」については、5割以上の若者が思うと回答している。

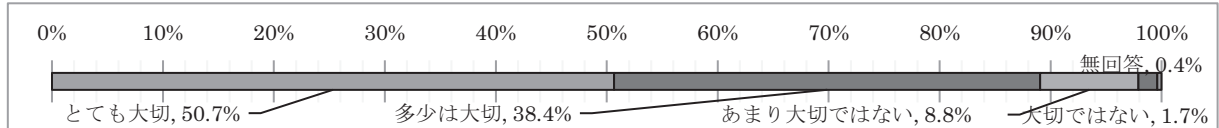
## 4 若者の職業観と就業意識

問 10 あなたは、仕事をする上で次のような事柄はどれくらい大切だと思いますか。それぞれの項目についてお答えください。（回答数／1,052）

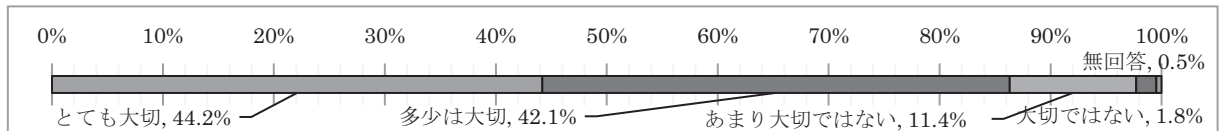
＜自分の個性や能力・資格が生かせること＞



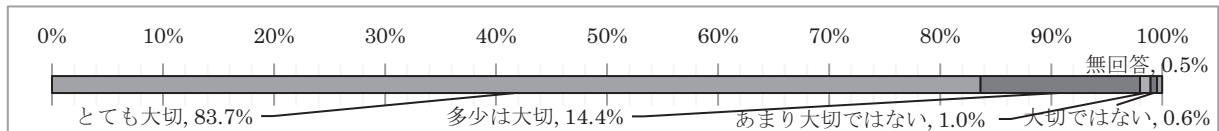
＜自分のやりたい仕事であること＞



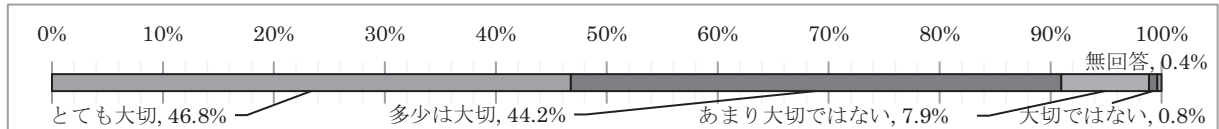
＜仕事を通して資格や技術が身につけられること＞



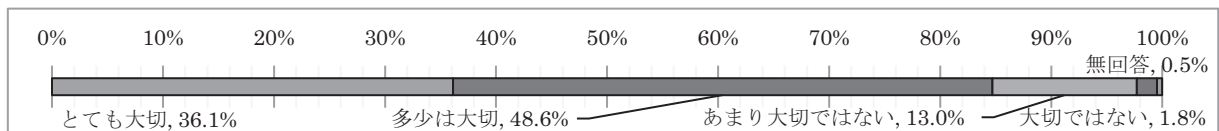
＜職場の雰囲気や人間関係が良いこと＞



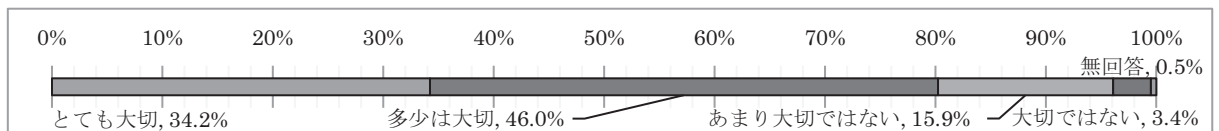
＜給料が高いこと＞



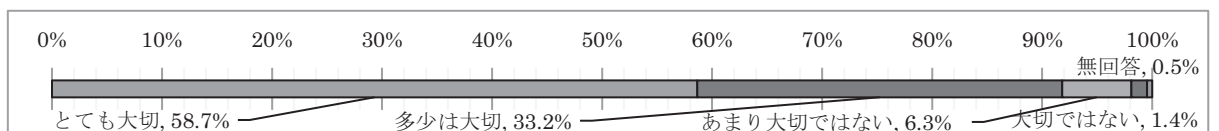
＜休みが多いこと＞



＜残業や休日出勤がないこと＞

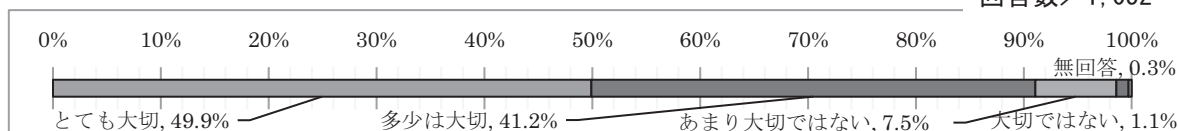


＜家庭や趣味と両立できること＞

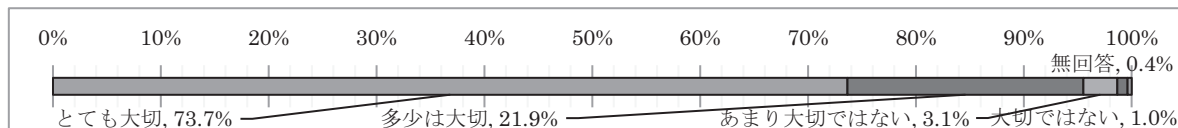


<通勤しやすい場所であること>

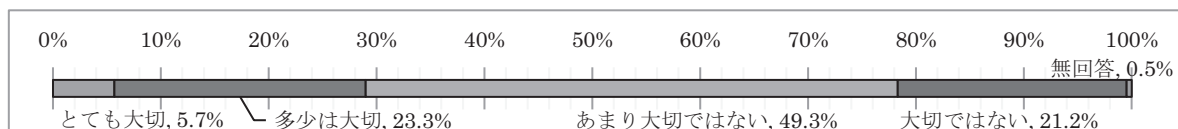
回答数/1,052



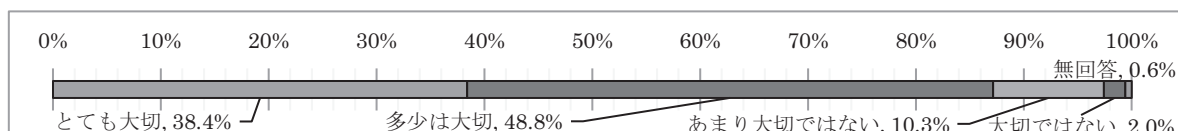
<長い期間にわたって安定して働けること>



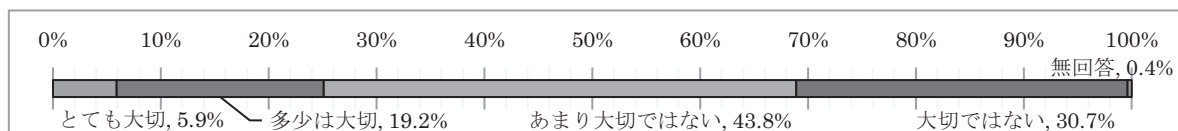
<有名な会社であること>



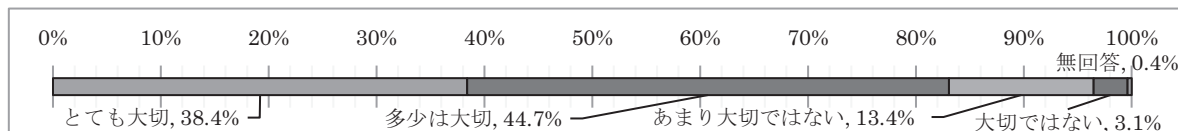
<働く会社に将来性があること>



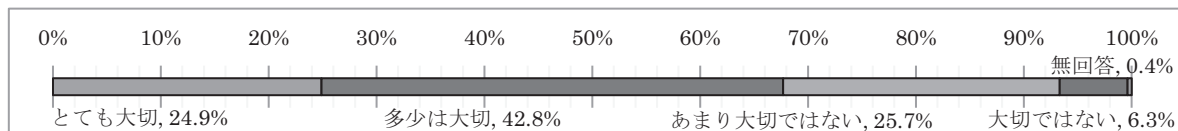
<将来、独立して自分で事業を起こせること>



<他の人や社会のために役立つ仕事であること>



<他の人や社会から尊敬される仕事であること>

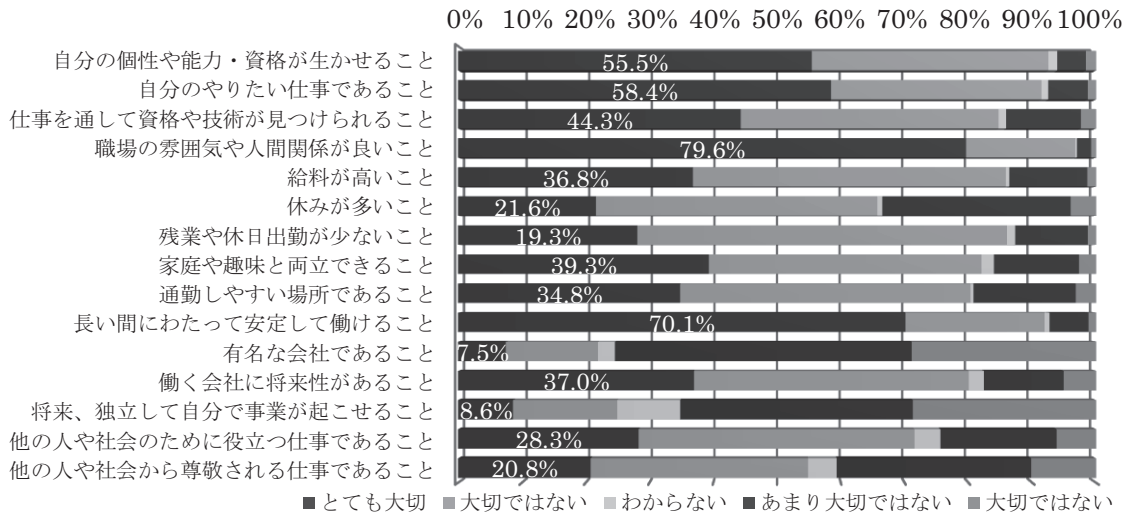


仕事をする上で大切だと思うことについては、「とても大切」と「多少は大切」を合すると、9割以上の若者が「自分の個性や能力・資格が生かせること」、「職場の雰囲気や人間関係が良いこと」、「給料が高いこと」、「家庭や趣味と両立できること」、「通勤しやすい場所であること」、「長い期間にわたって安定して働けること」が大切であると回答している。「自分のやりたい仕事であること」、「仕事を通して資格や技術が身につけられること」、「休みが多いこと」、「残業や休日出勤がないこと」、「働く会社に将来性があること」、「他の人や社会のために役立つ仕事であること」については、8割以上の若者が大切であると回答している。

「有名な会社であること」や「将来、独立して自分で事業を起こせること」については、大切であると回答した割合は3割以下となった。

新しい仕事を探すときに、次のような事柄はどれくらい大切か。

回答数／1,413

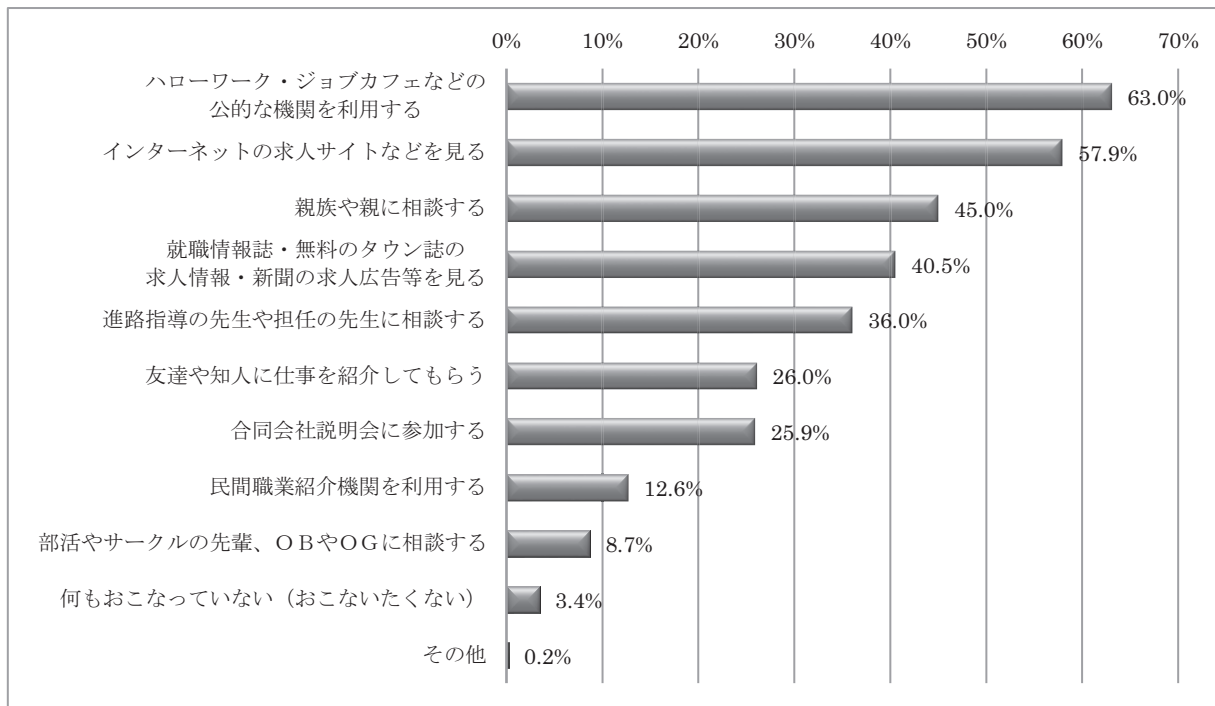


※参考 平成18年度「若年層の職業観と学習活動に関する調査研究報告書」より

平成18年度「若年層の職業観と学習活動に関する調査研究報告書」のデータと比較すると、「給料が高いこと」、「休みが多いこと」、「残業や休日出勤がないこと」、「家庭や趣味と両立できること」、「通勤しやすい場所であること」の項目において、「とても大切」と答えた若者の割合が10%以上高くなっている。10年前と比較すると、職場環境の充実を望んでいることが窺える。

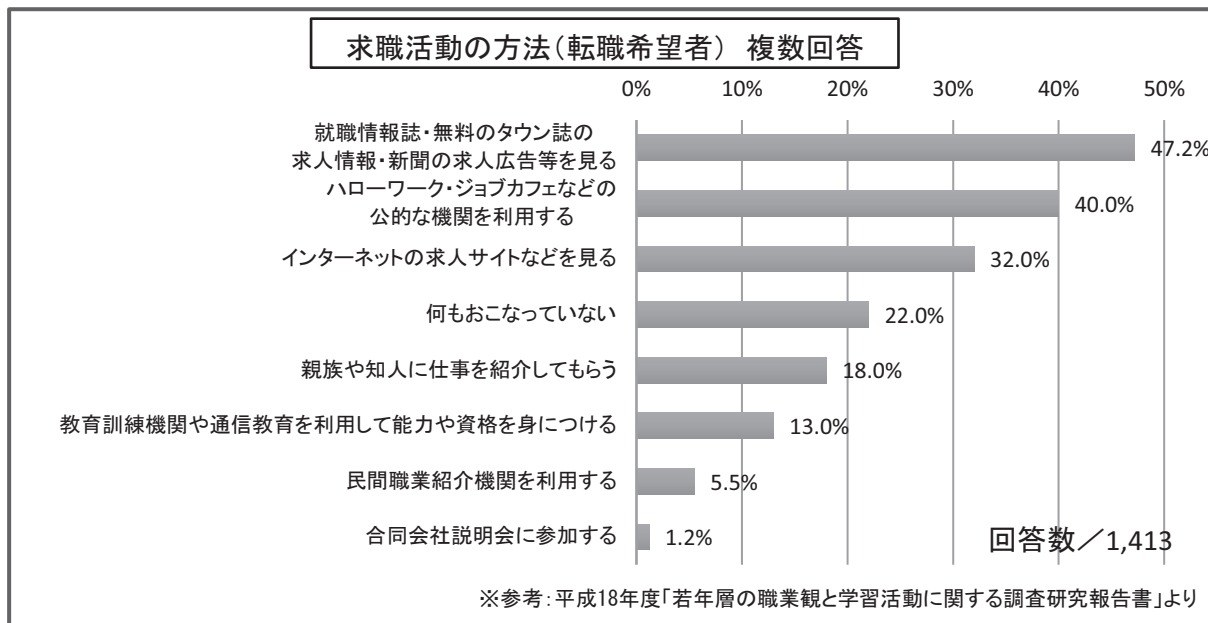
問 11 あなたは、職業を選択する際に次のことをおこなったことがありますか。これから仕事を探そうとする人については、おこなってみたいことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答数／1,052

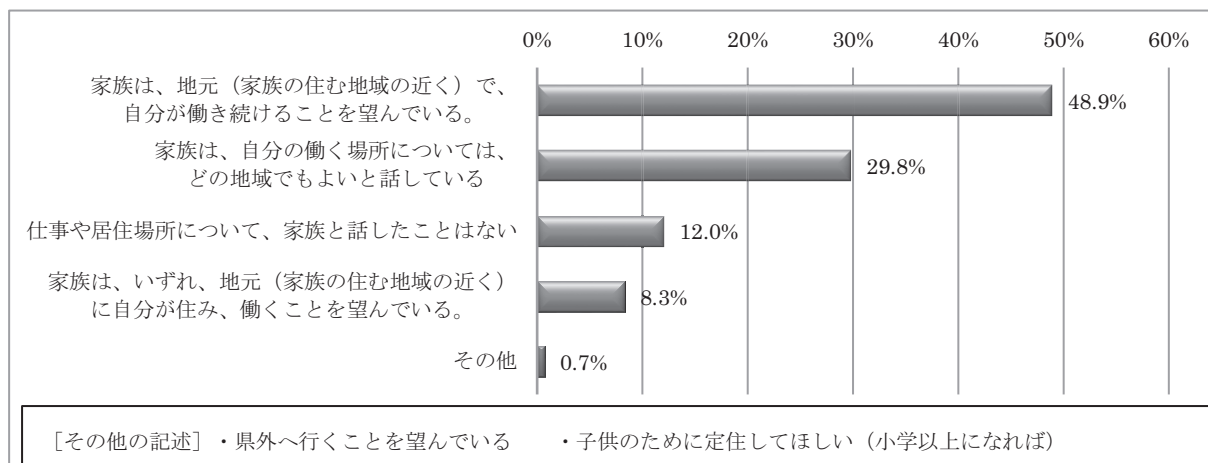


【その他の記述】・実際働いている人に話を聞く・自分で職場見学に行って目で見て確かめた・自分で勤めたい職場に連絡を取り、体験させてもらったり、自己PR書を渡して、求人情報をもらったりした。・インターシップ実習

職業を選択する際に行ったこととして、「ハローワーク・ジョブカフェなどの公的な機関を利用する」が63.0%、次いで「インターネットの求人サイトなどを見る」が57.9%、「親族や親に相談する」が45.0%であった。平成18年度「若年層の職業観と学習活動に関する調査研究報告書」（下記参照）のデータと比較すると、「インターネットの求人サイトなどを見る」で25ポイント上昇、「何もおこなっていない」に関しては19ポイント下降している。10年前と比較すると、所業選択のための情報をより積極的に収集していることが窺える。

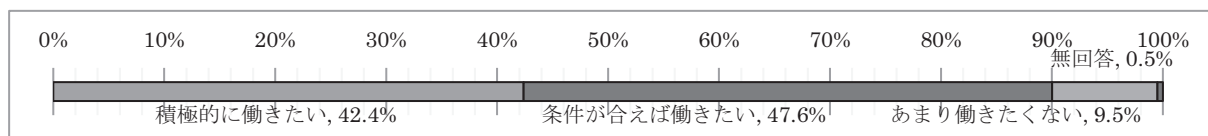


問 12 あなたのご家族は、あなたの働く場所について、どのように話していますか。次の中からあてはまるもの1つだけに○をつけてください。(回答数/1,052)

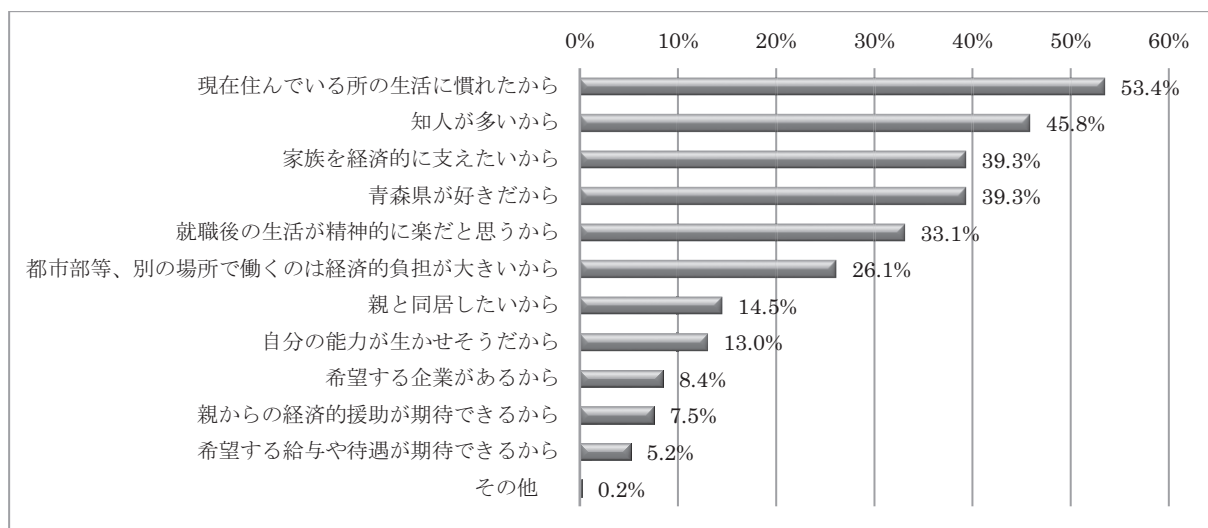


働く場所について家族は、「地元で働き続けることを望んでいる」が48.9%、次いで「どの地域でもよいと話している」が29.8%であった。

問 13 あなたは、青森県内で働くことや働き続けることに関心はありますか。あてはまるもの1つだけに○をつけてください。(回答数/1,052)



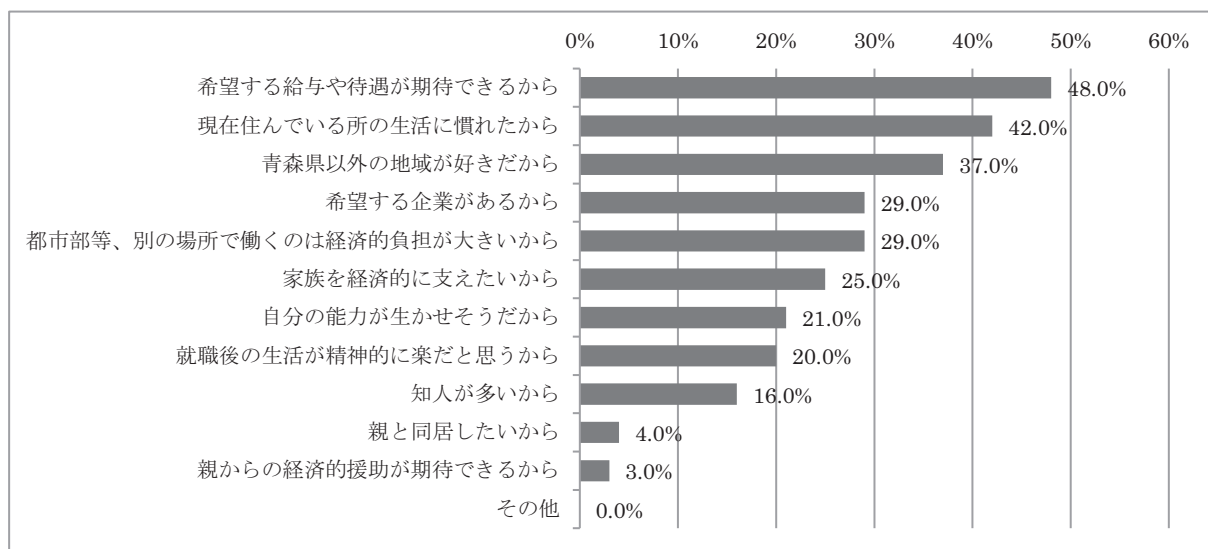
問 13-① 問 13 で「1 積極的に働きたい」「2 条件が合えば働きたい」を選んだ方にお聞きします。青森県内で働きたい理由について、次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。（回答数/947）



青森県内で働くことに関心があるかについては、「積極的に働きたい」と「条件が合えば働きたい」を合わせると、9割の若者が働きたいと回答している。その理由については、「現在住んでいる所の生活に慣れたから」が53.4%で最も多く、次いで「知人が多いから」が45.8%、「家族を経済的に支えたいから」と「青森県が好きだから」が39.3%であった。

問 13-② 問 13 で「3 あまり働きたくない」を選んだ方にお聞きします。青森県以外の場所で働きたい理由について、次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

回答数/100

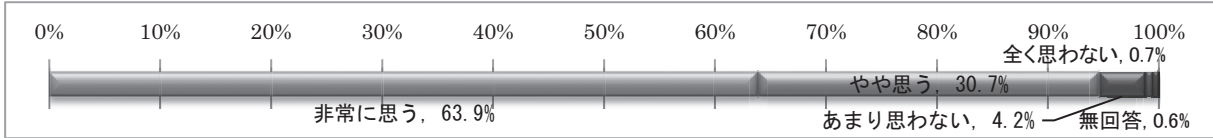


青森県内で働くことに関心があるかについては、およそ1割の若者が「あまり働きたくない」と考えている。その理由については、「県外だと希望する給与や待遇が期待できるから」が48.0%と最も多く、次いで「現在住んでいる所の生活に慣れたから」が42.0%、「青森県以外の地域が好きだから」が37.0%であった。

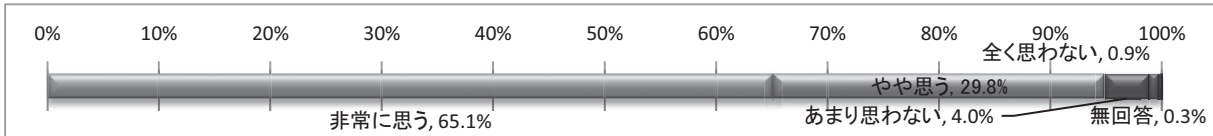
## 5 若者の青森県に対するイメージ

問 14 青森県について、どのようなイメージを持っていますか。それぞれの項目についてお答えください。 (回答数/1,052)

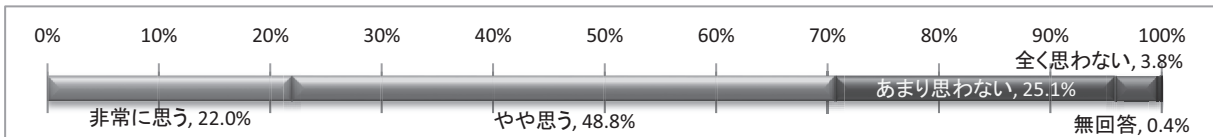
＜豊かな自然環境に恵まれている＞



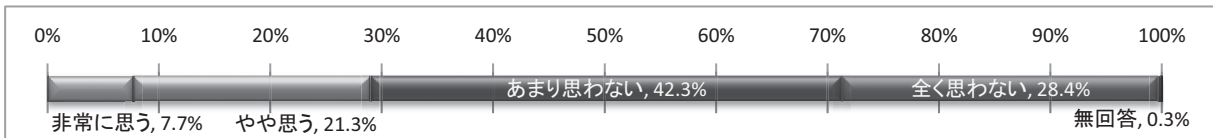
＜おいしい食やきれいな水に恵まれている＞



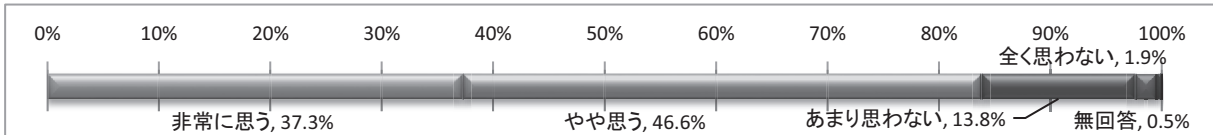
＜犯罪や交通事故などが少ないなど、安心して暮らすことができる＞



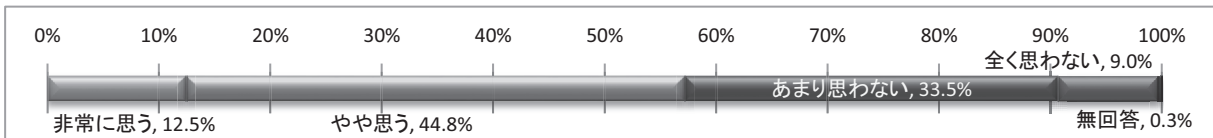
＜通勤・通学や買い物など身近な交通の便が良い＞



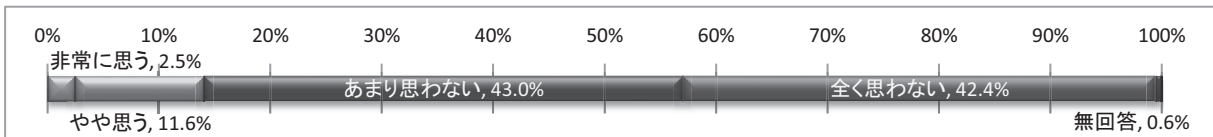
＜伝統的な祭りや伝統芸能が盛んである＞



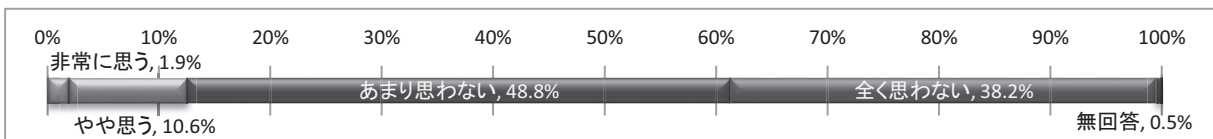
＜近所付き合いがよく、温かい人間関係が大切にされている＞

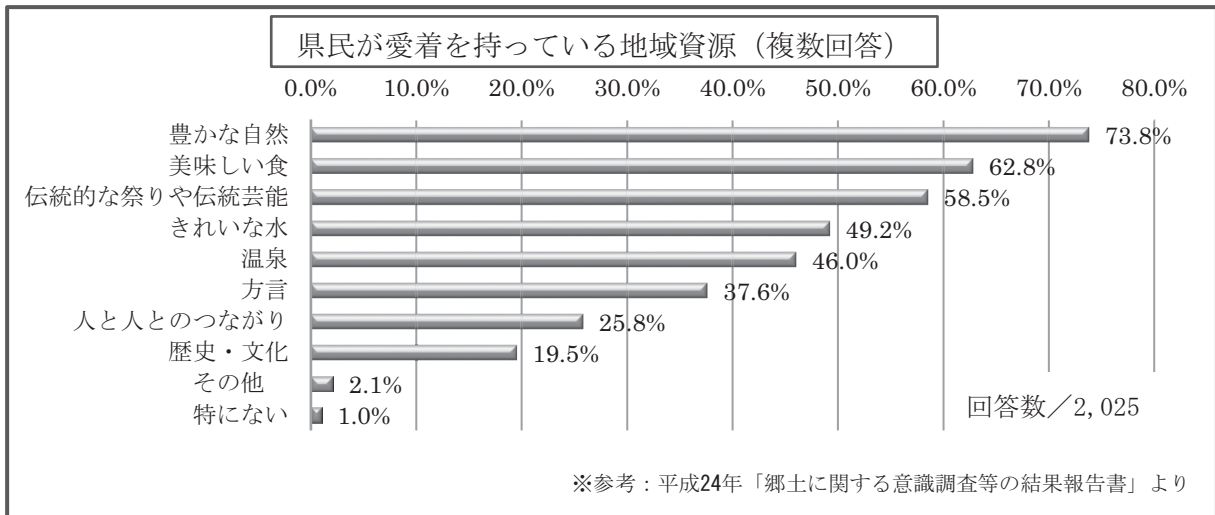


＜商業施設や娯楽施設等が充実している＞



＜産業が盛んで、働く場に恵まれている＞



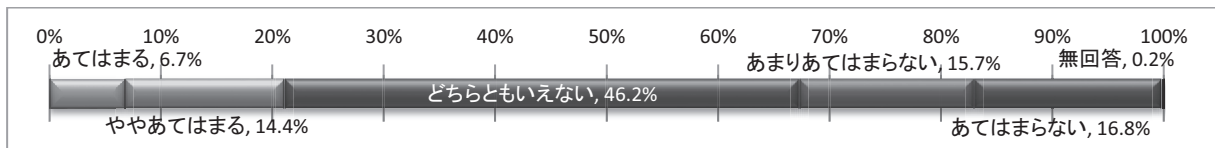


青森県に対しては、「非常に思う」と「やや思う」を合わせると、9割以上の若者が「豊かな自然環境に恵まれている」と「おいしい食やきれいな水に恵まれている」というイメージを持っている。次いで、8割以上の若者が「伝統的な祭りや伝統芸能が盛んである」というイメージを持っている。

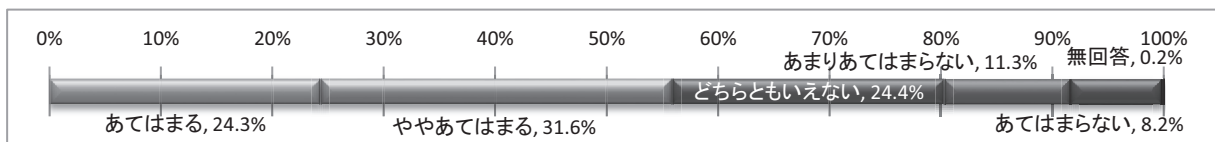
この結果は、平成24年度に実施された「郷土に関する意識に関する意識調査」においても、上位の3項目が一致している。

**問 15 あなたは、あなたと青森県との関係について、どのように感じていますか。それぞれの項目についてお答えください。（回答数／1,052）**

＜私は青森県に必要な人材であると感じる＞



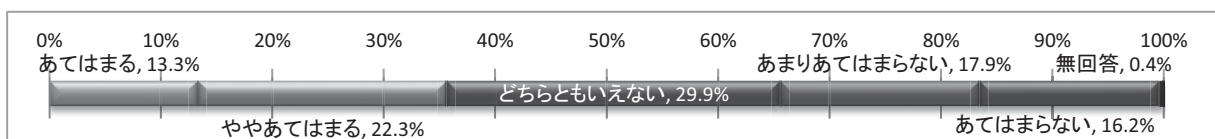
＜私はこの青森県の将来のことが、とても気になる＞



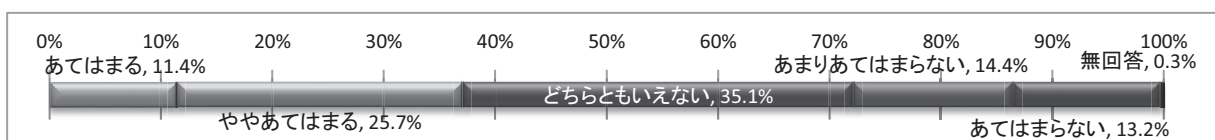
＜私はこの青森県に愛着を感じる＞



＜青森県を離れることは、たとえ離れたくても、大変困難であると感じる＞



＜私が青森県にいるのは、そうしたいからと同時に必要と感じているからである＞



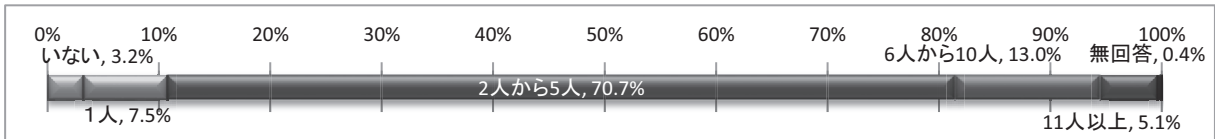


青森県については、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると、約7割の若者が愛着を感じると回答している。青森県の将来については、5割以上の若者がとても気になると回答している。3割程度の若者は、青森県を離れることが大変困難であると感じており、青森県にいるのは必要と感じているからと回答している。

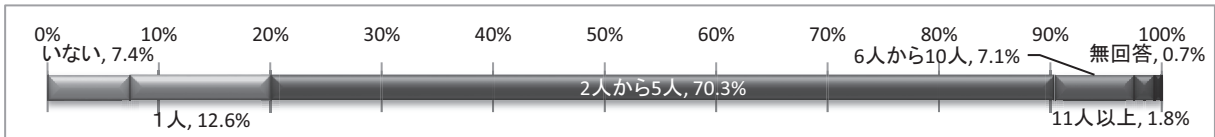
## 6 若者の人間関係について

問 16 あなたの家族や親せきを含めて、次のような相手がどのくらいいますか。(〇はそれぞれ1つずつ) (回答数/1,052)

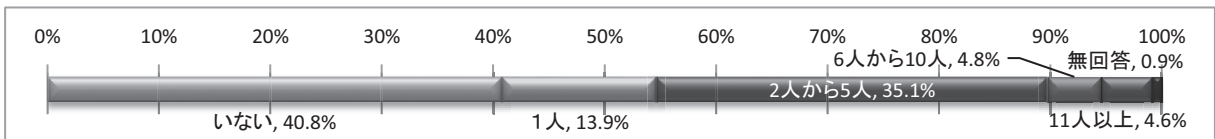
<困ったときに相談に乗ってくれる人>



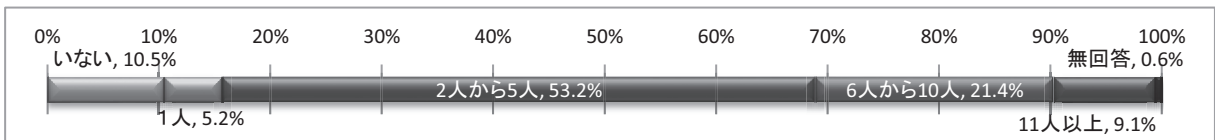
<個人的な悩みを話せる人>



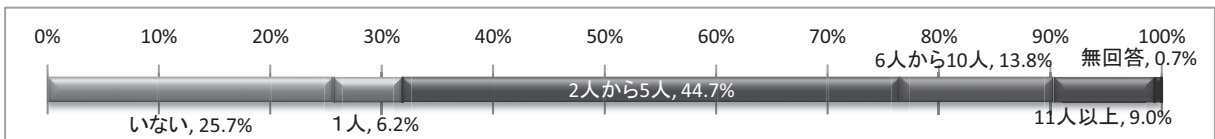
<同じ目標を目指して一緒に何かしている人>



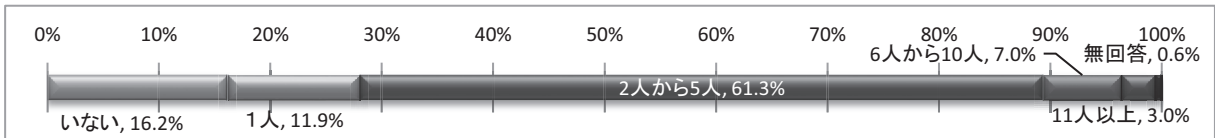
<地元で一緒に遊ぶ人>



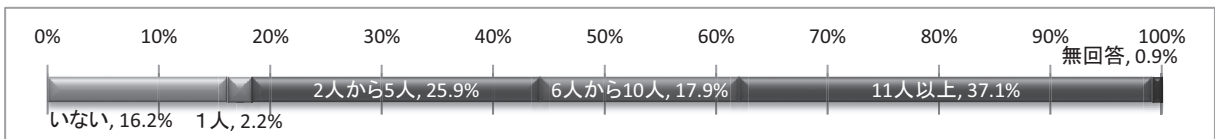
<地元以外で一緒に遊ぶ人>



<何かについて、自分に頼ってくれる人>



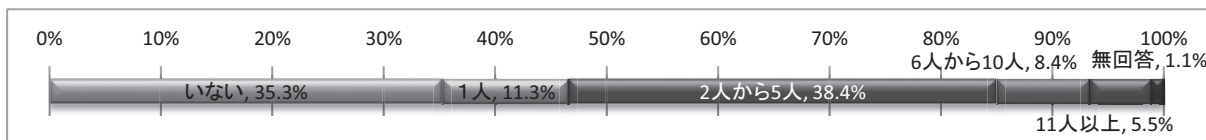
<特に親しくはないが、一緒に仕事や活動をする人>



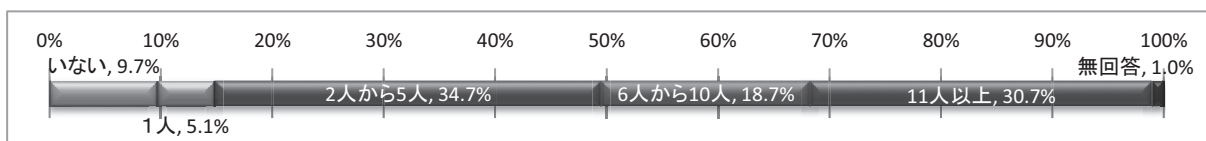
若者の人間関係については、「困ったときに相談にのってくれる人」や「個人的な悩みを話せる人」は、7割以上の若者が2人から5人いると回答している。「同じ目標を目指して一緒に何かしている人」については、4割以上の若者がいないと回答している。

問17 次のような場所に住んでいる友人や知人は、家族や親戚を含めてどのくらいいますか。(〇はそれぞれ1つずつ) (回答数/1,052)

<徒歩で10分以内のところに住んでいる人>



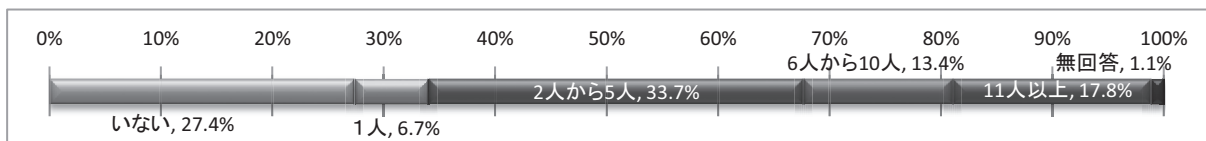
<徒歩で10分よりかかるが、同じ市町村に住んでいる人>



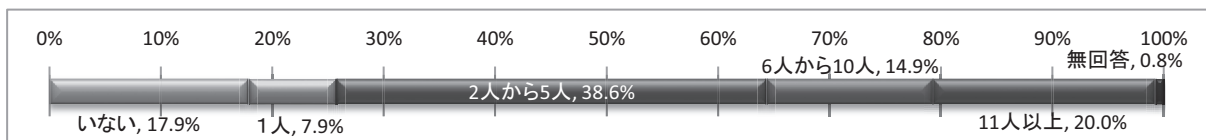
<同じ市町村ではないが、県内に住んでいる人>



<青森県外の東北地域に住んでいる人>



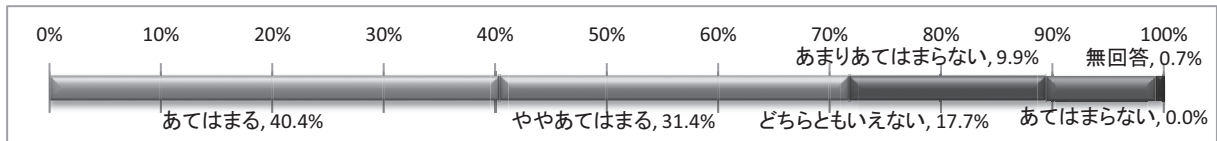
<関東地方に住んでいる人>



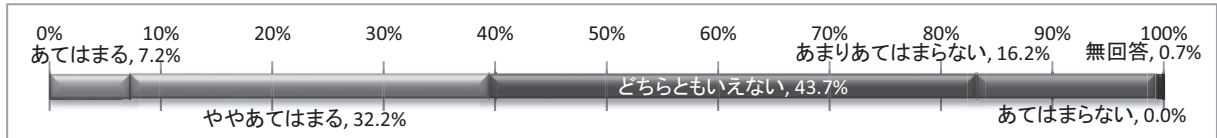
徒歩で10分以内のところに住んでいる友人や知人の数は、2人から5人が最も多く38.4%であった。同じ市町村に住んでいる友人や知人の数は、2人から5人が最も多く34.7%であった。県内に住んでいる友人や知人の数は、11人以上が最も多く34.4%であった。青森県以外の東北地域に住んでいる友人や知人の数は、2人から5人が最も多く33.7%であった。関東地方に住んでいる友人や知人の数は、2人から5人が最も多く38.6%であった。

問 18 あなたは、他の人との関係について、以下のことはあなたご自身にどれくらい当てはまりますか。（○はそれぞれ1つずつ）（回答数/1,052）

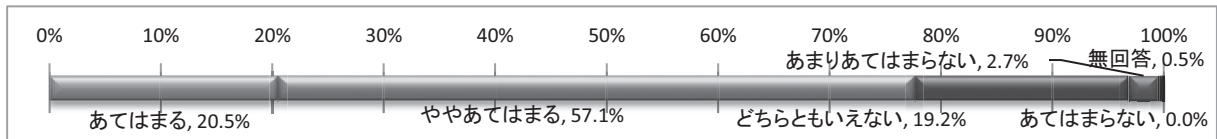
＜知らない人がたくさんいる場所は苦手だ＞



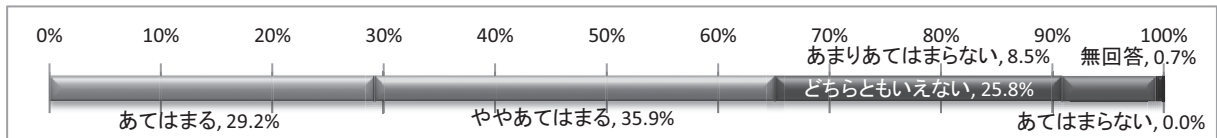
＜自分の気持ちを相手にうまく伝えられる＞



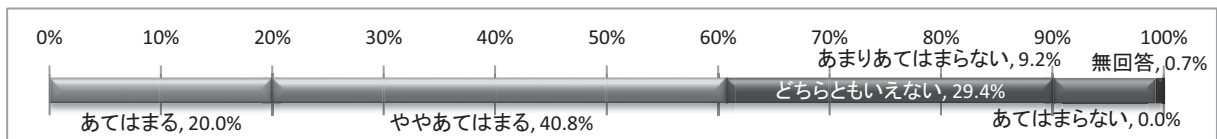
＜相手の言いたいことは察することができる＞



＜人に嫌われないかいつも心配している＞



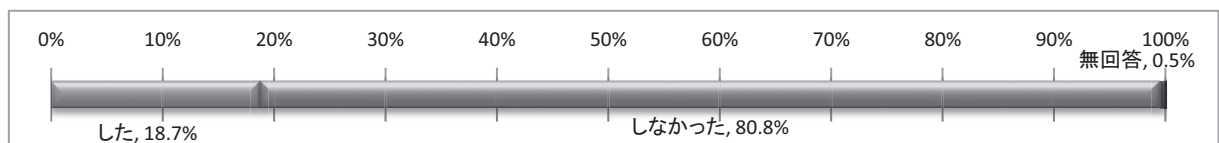
＜自分の意見が他の人に賛成してもらえないと不安になる＞



他の人との関係について、「知らない人がたくさんいる場所は苦手だ」に対し、7割以上の若者が苦手だと感じている。「相手の言いたいことは察することができる」に対し、7割以上の若者があてはまると回答している。「人に嫌われないかいつも心配している」や「自分の意見が他の人に賛成してもらえないと不安になる」に対し、6割以上の若者があてはまると回答している。「自分の気持ちをうまく伝えられる」に対しては、約4割の若者があてはまると回答している。

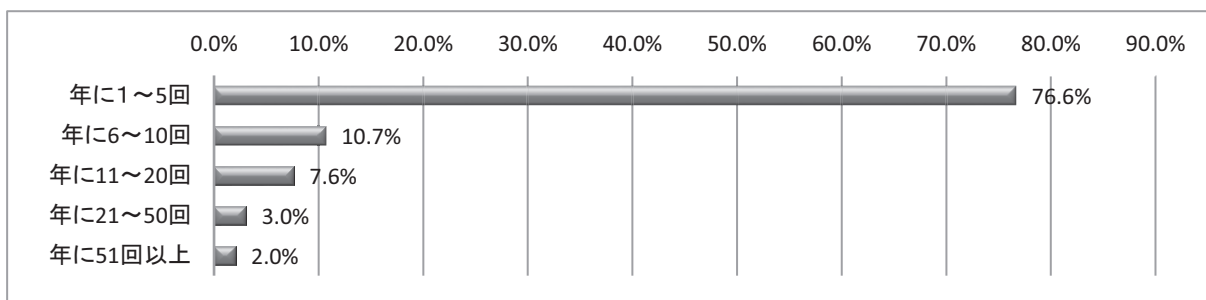
## 7 若者の社会参加活動について

問 19 あなたは、現在も含めて、この1年間にボランティアや地域活動・社会貢献活動などをしましたか。いずれかに○をつけてください。（回答数/1,052）

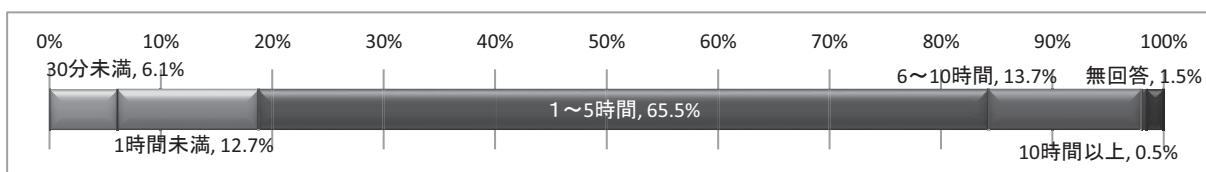


問 19-① 問 19 で「1 した」と回答した方にお聞きします。あなたは、この1年間にどのくらいボランティアや地域活動・社会貢献活動をしましたか。次の口にあてはまる数字を記入してください。（回答数／197）

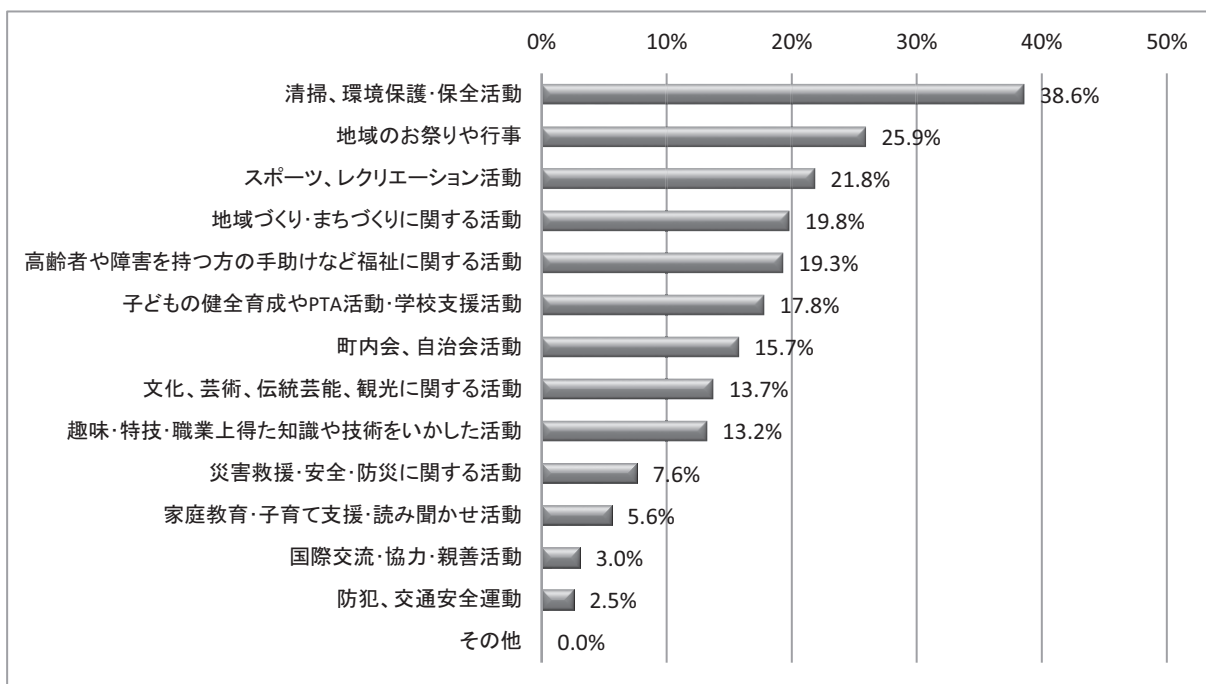
<年間の回数>



<一回の活動時間>

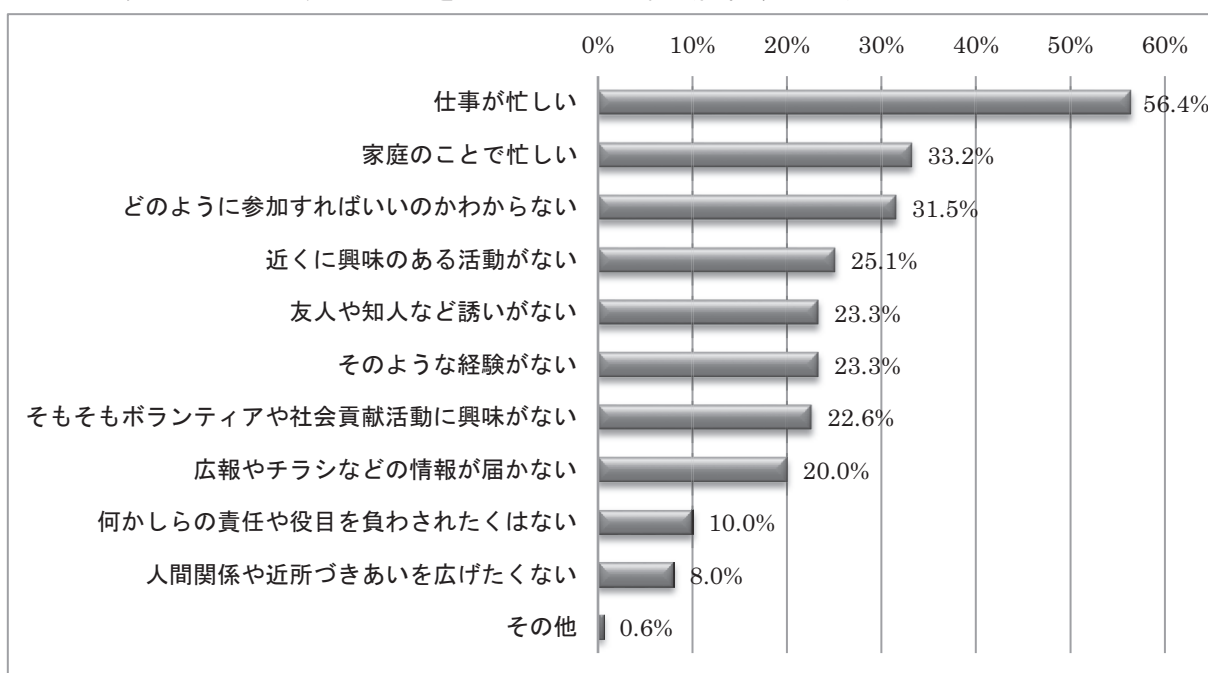


<活動内容>

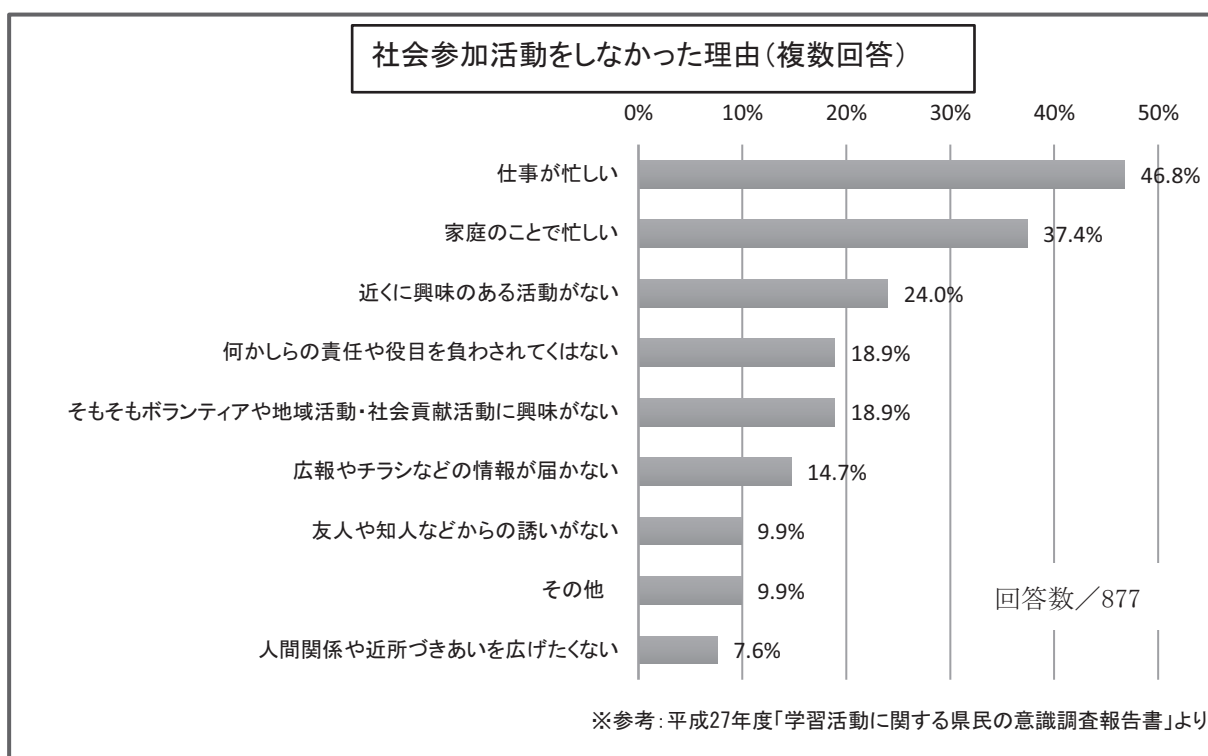


全体の2割近くの若者が、この1年間にボランティアや地域活動・社会貢献活動を行ったことがある。活動時間については、1回あたり1時間から5時間までが最も多く、65.5%であった。活動内容は「清掃、環境保護・保全活動」が最も多く38.6%、次いで「地域のお祭りや行事」が25.9%であった。

問 20 問 19 で「2しなかった」と回答した方にお聞きします。しなかった理由について、次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。（回答数／850）

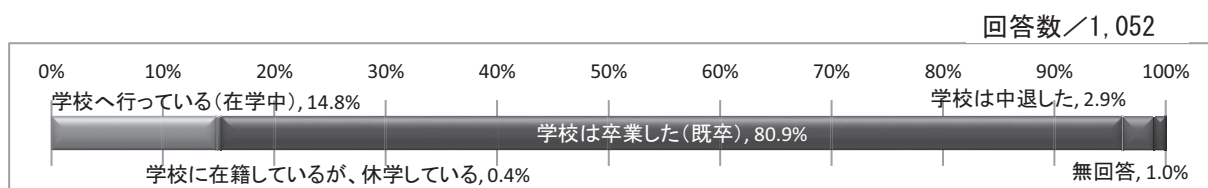


社会参加活動をしなかった理由として、「仕事が忙しい」が最も多く 56.4%で、昨年度実施した「学習活動に関する県民の意識調査報告書」（下記参照）と比較すると約 10 ポイントの差がある。特に注目したいのは、今回の調査で新たに「どのように参加すればいいのかわからない」という項目を加えたところ、全体の 31.5%がどのように参加すればいいのかわからないと回答していることである。また、「そのような経験がない」が 23.3%、「近くに興味のある活動がない」が 25.1%となっていることから、若者がボランティアや地域活動・社会貢献活動に対し興味関心を示していることが窺える。



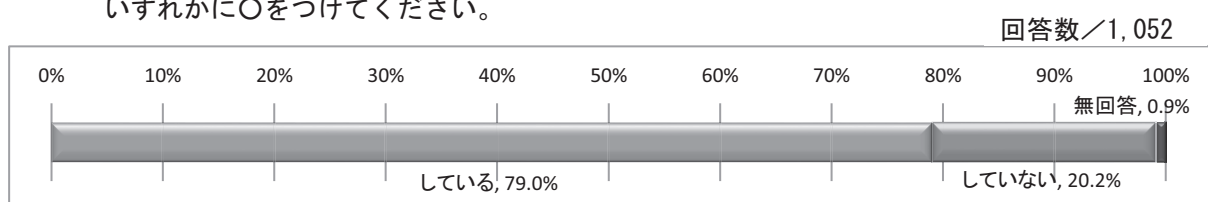
## 8 回答者の属性（職業、家庭環境）

問 21 あなたは、現在学校へ行っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

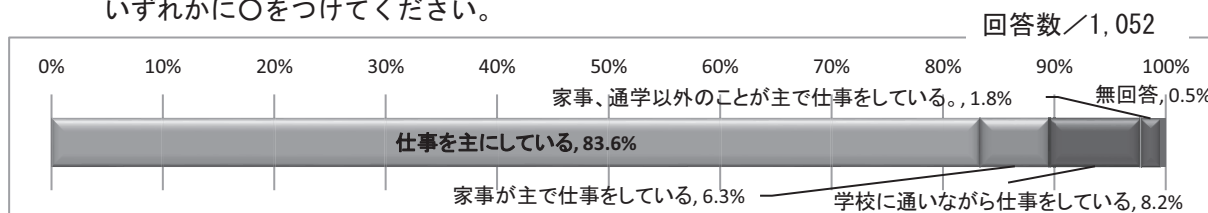


在学中の回答者は、休学を含めて全体の 15.2%、既卒者は全体の 80.9%である。

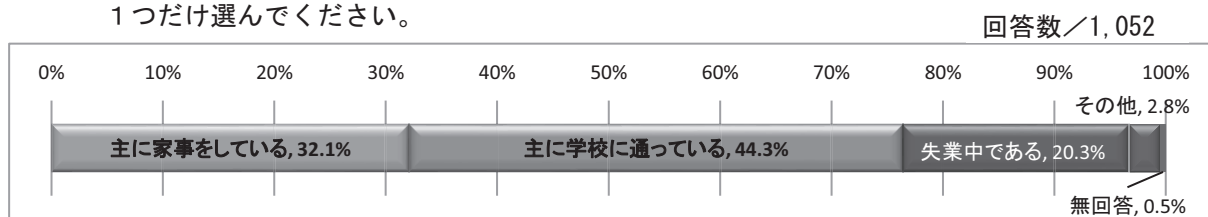
問 22 あなたは、現在、家業の手伝いやアルバイトを含めて、何か収入になる仕事をしていますか。いずれかに○をつけてください。



問 22-① 問 22 で「1 している」と回答した方へお聞きします。どのように仕事をしていますか。いずれかに○をつけてください。



問 22-② 問 22 で「2 していない」と回答した方へお聞きします。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。

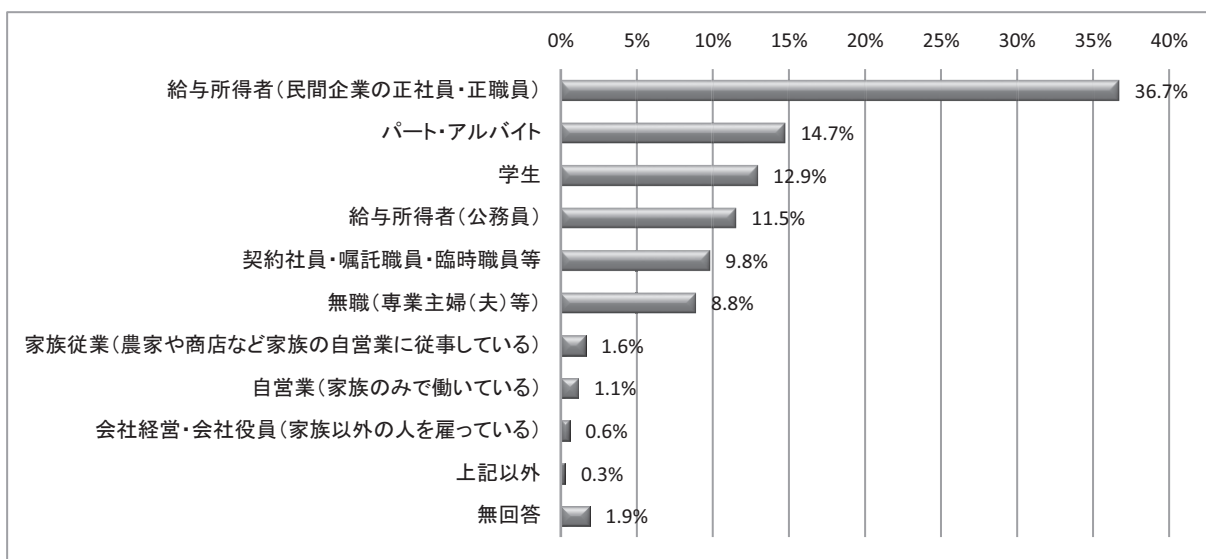


[その他の記述] ・病気のため ・保育園がなく、仕事ができない ・育休中（2名） ・子育て中 ・産休中・  
 子供を産んだばかりで育児に専念している ・育児をする人が家族の中で自分だけだから ・高卒をとる会社が多  
 い ・施設に行っている ・休職中 ・未記入（2名）

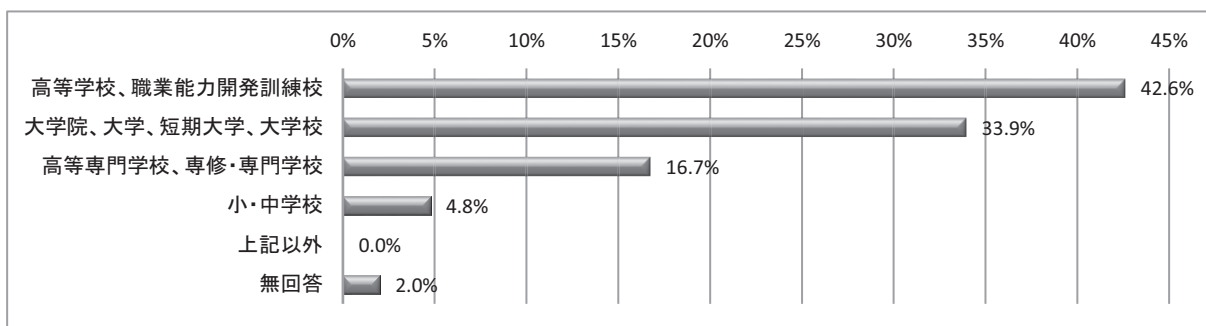
現在収入になる仕事をしているのは全体の 79.0%、仕事をしていないのは全体の 20.2%である。どのように仕事をしているかについては、「仕事を主にしている」が 83.6%、次いで「学校に通いながら仕事をしている」が 8.2%であった。仕事をしていない理由については、「主に学校に通っている」が 44.3%、次いで「主に家事をして

問 23 あなたのご職業とお仕事の内容、最後に卒業した学校（現在学校に通っている方は、在学中の学校）を教えてください。（アルバイトなどを含む）（回答数／1,052）

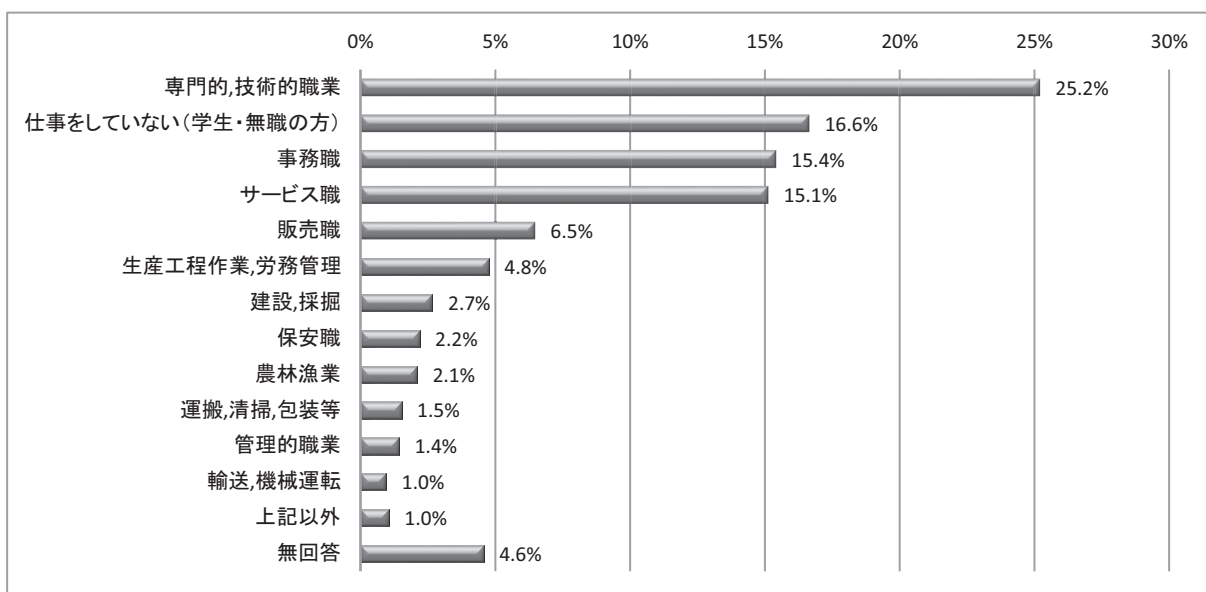
<職業>



<最後に卒業した学校>



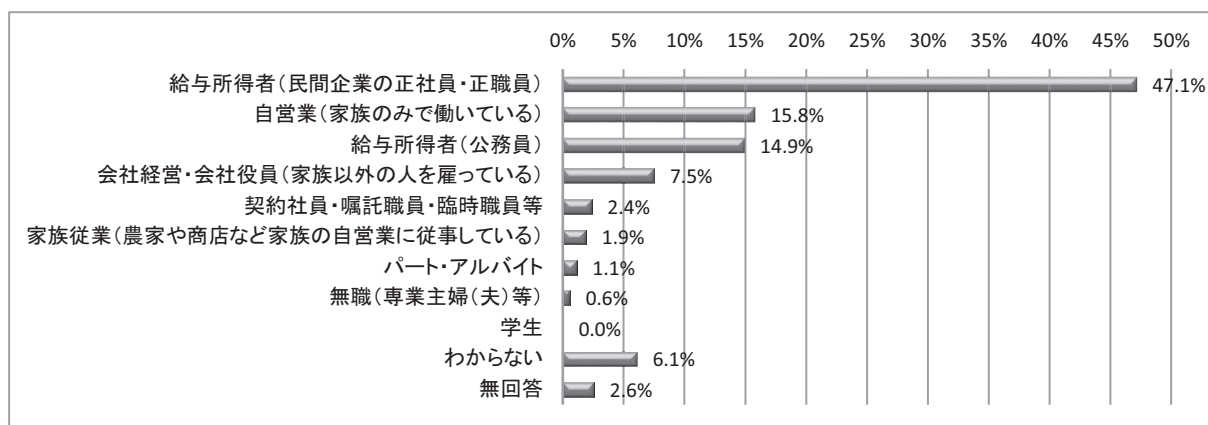
<仕事の内容>



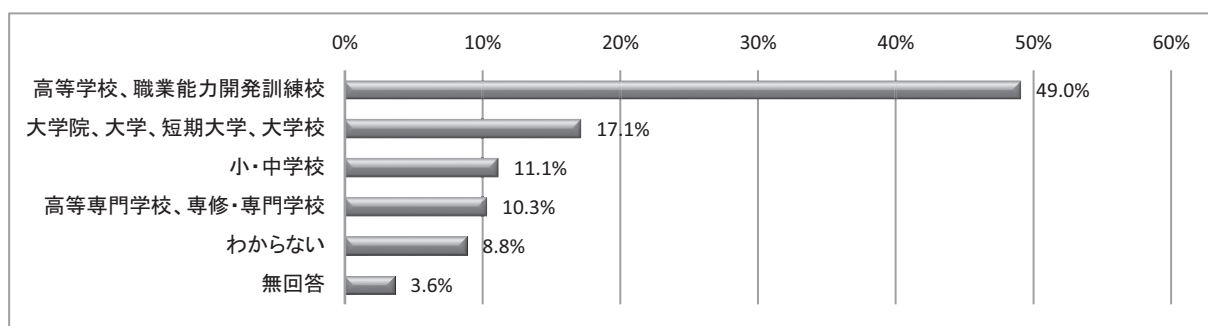
職業については「給与所得者（民間企業）」が最も多く 36.7%、最終学歴は「高等学校、職業能力開発訓練校」が最も多く 42.6%、仕事の内容では「専門的、技術的職業」が最も多く 25.2%であった。

問 24 あなたのご両親が長く勤められていたご職業と仕事の内容、ご両親の最終学歴について教えてください。（回答数／1,052）

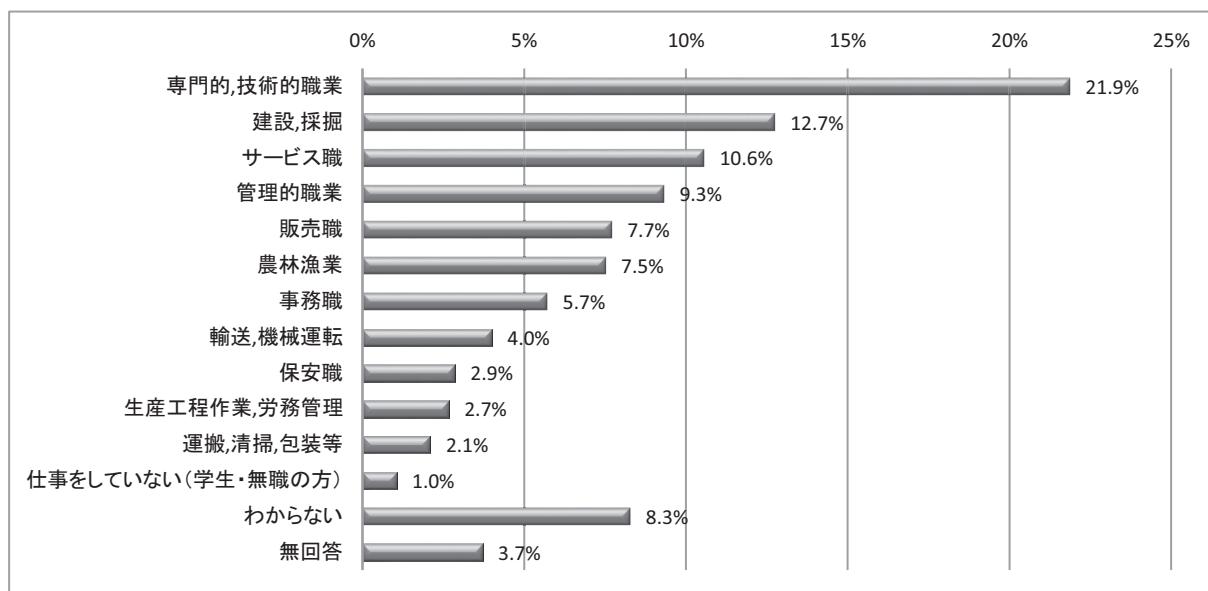
<父親の職業>



<父親の最終学歴>



<父親の仕事の内容>

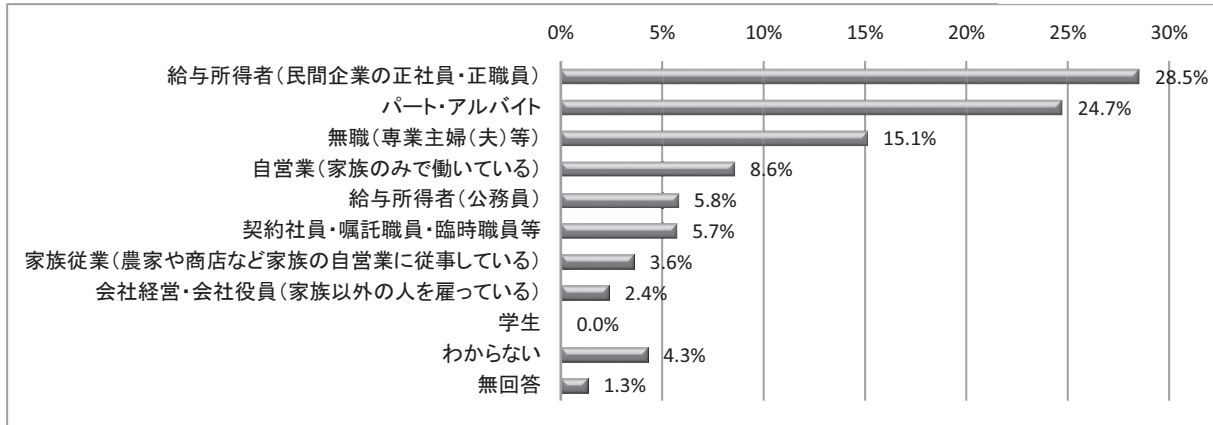


父親の職業については「給与所得者(民間企業)」が最も多く 47.1%、次いで「自営業」が 15.8%であった。最終学歴は「高等学校、職業能力開発訓練校」が最も多く 49.0%、次いで「大学院、大学、短期大学、大学校」が 17.1%であった。仕事の内容では「専門的、技術的職業」が最も多く 21.9%であった。次いで「建設、採掘」が 12.7%であった。

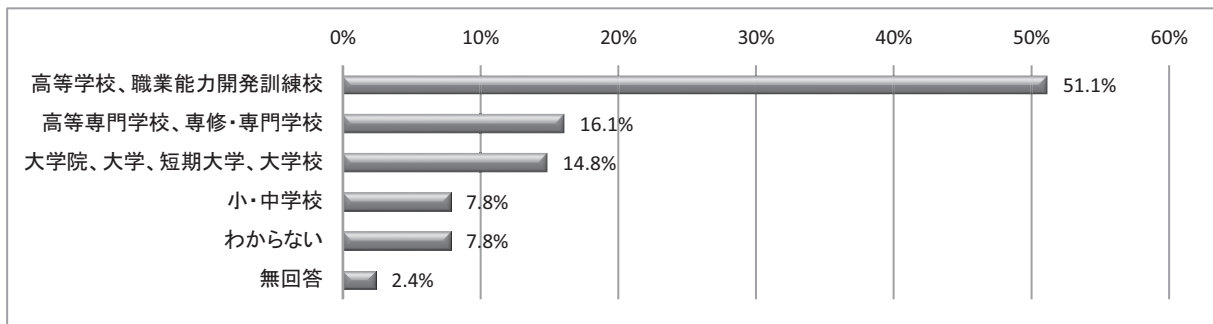


<母親の職業>

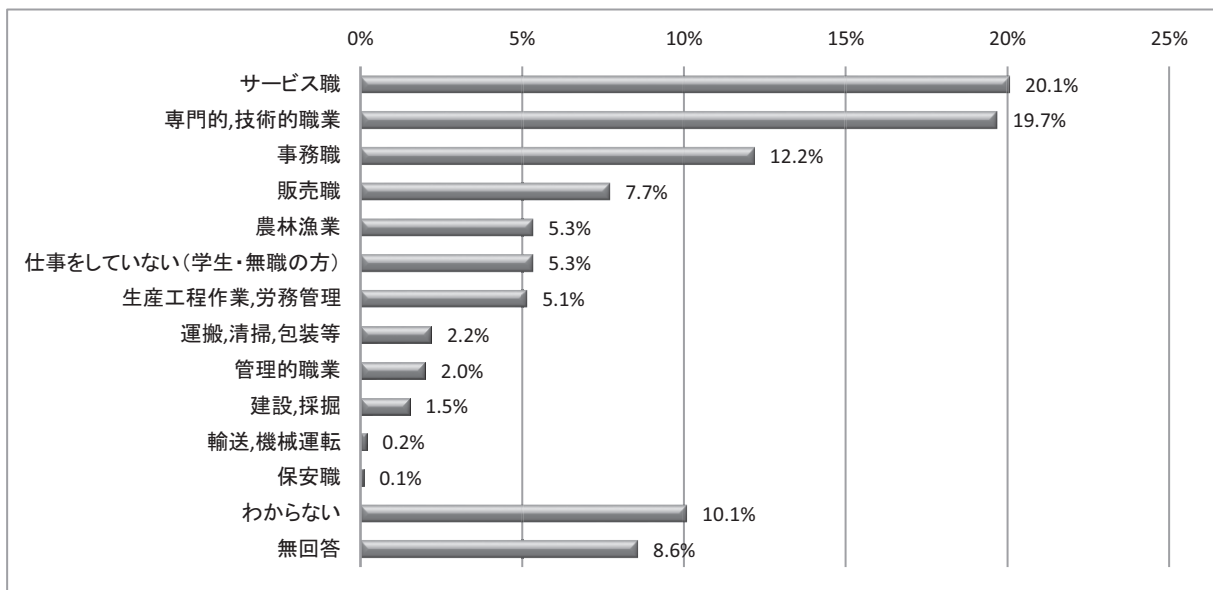
回答数/1,052



<母親の最終学歴>

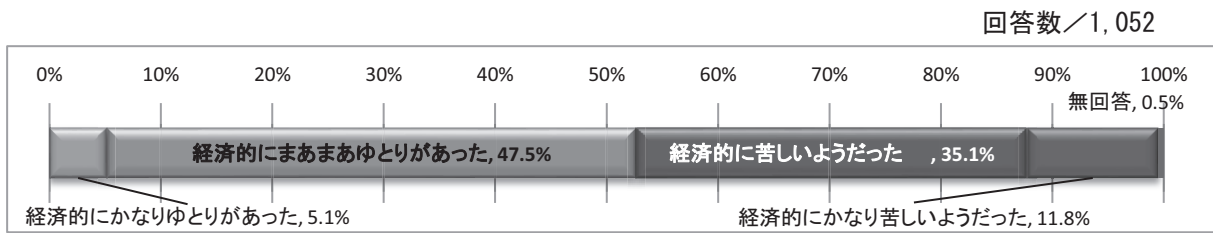


<母親の仕事の内容>



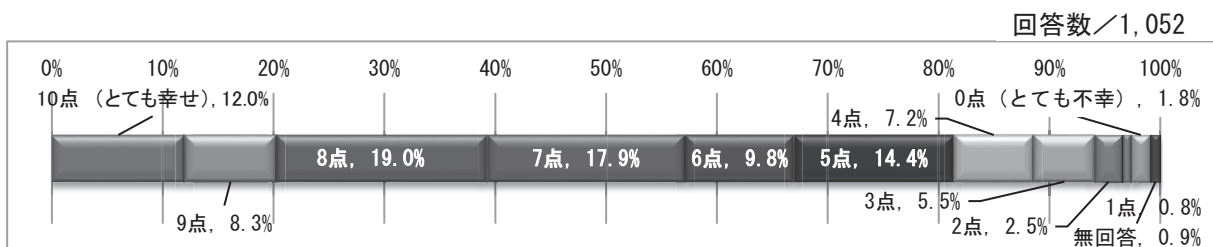
母親の職業については「給与所得者(民間企業)」が最も多く28.5%、次いで「パート・アルバイト」が24.7%であった。最終学歴は「高等学校、職業能力開発訓練校」が最も多く51.1%、次いで「高等専門学校、専修・専門学校」が16.1%であった。仕事の内容では「サービス職」が最も多く20.1%であった。次いで「専門的、技術的職業」が19.7%であった。

問 25 あなたが 18 歳のときの家庭の経済状況について、あてはまるものを次の中から 1 つだけ選んでください。



「経済的にかなりゆとりがあった」と「経済的にまあまあゆとりがあった」を合わせると、全体の 52.6% がゆとりがあったと回答している。

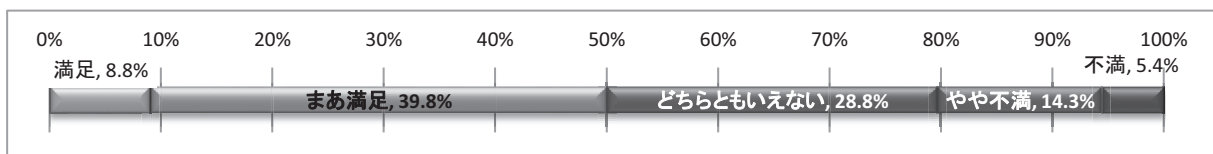
問 26 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を選んで○をつけてください。



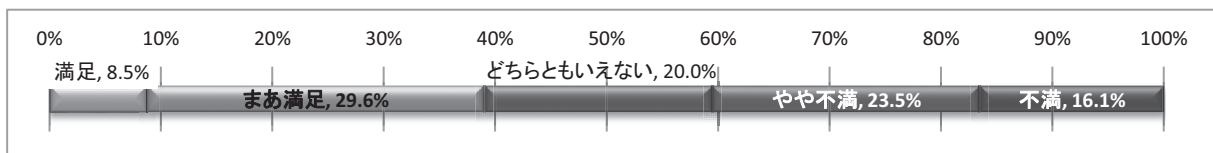
幸福度については、「8 点」が最も多く 19.0%、次いで「7 点」が 17.9% であった。6 点から 10 点までの割合を合わせると、全体の 67% が幸せと回答している。若者の 3 人に 2 人は幸せと感じている。

問 27 現在アルバイトを含めて仕事をしている人に聞きます。次のようなことに満足していますか、不満ですか。それぞれの項目についてお答えください。(回答数 / 1,052)

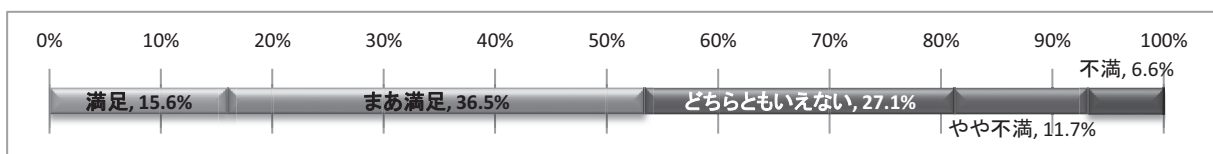
< a. 総合的に >



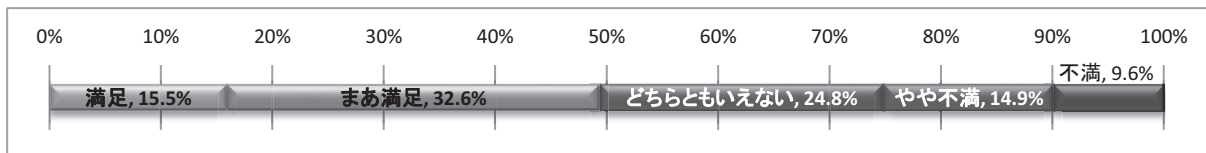
< b. 収入 >



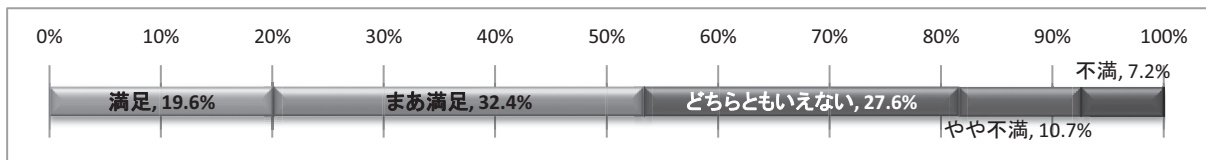
< c. やりがい >



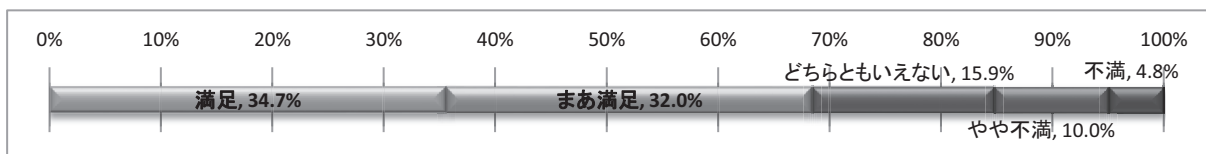
< d. 労働時間 >



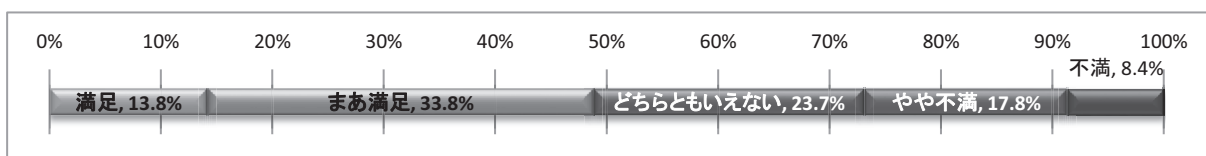
< e. 福利厚生 >



< f. 自宅と勤務地の距離 >



< g. 仕事と生活のバランス >

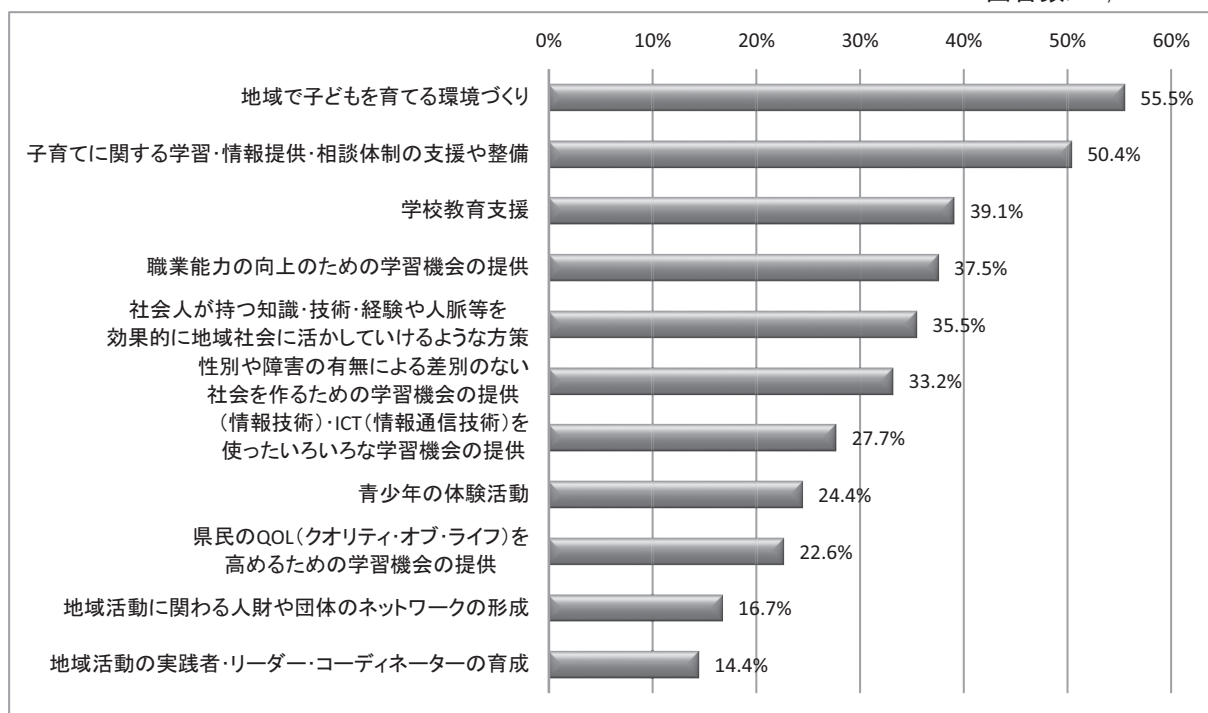


仕事の満足度については、「満足」と「まあ満足」を合わせると、総合的に全体の48.6%は満足していると回答している。「収入」については、全体の38.1%が満足している。「やりがい」については、全体の52.1%が満足している。「労働時間」については、全体の48.1%が満足している。「福利厚生」については、全体の52.0%が満足している。「自宅と勤務地の距離」については、全体の66.7%が満足しており最も多い割合であった。「仕事と生活のバランス」については、全体の47.6%が満足している。

「やや不満」と「不満」を合わせると、最も多いのが「収入」で全体の39.6%が不満と感じている。次いで「仕事と生活のバランス」で全体の26.2%が不満と感じている。

問 28 あなたは、県の教育委員会が、県民の生涯学習・社会教育を進める上で、今後どのようなことに力を入れたらよいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

回答数／1,052



「地域で子どもを育てる環境づくり」、「子育てに関する学習・情報提供・相談体制の支援や整備」に全体の5割以上が力を入れてほしいと望んでいる。平成27年度「学習活動に関する県民の意識調査報告書」のデータを見ると、「地域全体で子どもを育てる活動の充実」が全体の41.2%、「子育てや家庭教育支援の充実」が全体の41.8%であるので、県内の若年層は子育てや家庭教育支援を強く望んでいることが窺える。

県教育委員会に推進してほしい施策に対する要望(複数回答)

